

# 無名峰

1995年12月

創部25周年記念誌号

日本福祉大学Ⅱ部山岳部

# 目 次

記念誌の発行に向けて	1995年度部長	田口 剛	.....	1
記念誌発刊によせて	OB会長	高橋憲常	.....	2
山行記録	(1983年～1995年度)		.....	3
アルバムから			.....	6
寄稿			.....	14
徒然帳から			.....	54
資料：95年度方針			.....	68
日本福祉大学Ⅱ部山岳部OB・OG住所録			.....	76
日本福祉大学Ⅱ部山岳部現部員住所録			.....	80
編集後記			.....	81

私たちの二部山岳部が1969年に創立されて今年で26周年になります。本来なら昨年度発行されるはずの記念誌が1年遅れてしまったことをまず、この場をお借りしてお詫び申し上げます。発行に関して今年度に入ってからOBの方と何度か打ち合わせが行われ、6月に行われたOB、OG会で確認されました。その後、編集委員会を週1回行いながら、月一回、OBの吉岡さんと打ち合わせを行ってきました。昔の先輩方の山行計画書を見ながら、部員の多さとレベルの高さに驚き、古い徒然帳を見れば、今と同じ様なことで悩んでいたのが読みとれたりして、非常に興味深かったです。現在、私達の活動は無雪期の縦走が主な活動となっており、積雪期の登山は冬合宿位です。岩登りは個人で取り組もうとしている人はいるのですが、部全体の取り組みとしては行われていません。一度なくなった活動をまた始めるのはそれなりの困難があります。しかし、この二部山岳部を創立された先輩方の苦勞に比べたら困難と呼ぶに値しない程のものでしょう。

私が入部してから3年近くなりますが、その間だけでもずいぶん装備が変わりました。ホエーブスがなくなり、コールマンもあまり使わなくなり、今はEPIガスを多用しています。先輩方からみればもっと変わっていると思います。社会環境も変化しているでしょう。様々なものが変化している中、相変わらず山に登っている二部山岳部のなかで、受け継がれているもの、受け継ぐべきものはいったい何なんだろうかとかんがえています。

最後になりましたが、この記念紙発行に向けて金銭的、精神的な援助をしていただいた諸先輩方にお礼をのべたいとおもいます。

# 記念誌発刊によせて

OB会長 高橋 憲常

記念誌の発刊おめでとうございます。そして、作成に携わりました現役、OBの皆様の大変なご努力に深く感謝いたします。また、25年間の山岳部の歴史を築き、支え、ご協力していただきました全ての関係諸氏に感謝いたします。

さて、私事ではございますが、去る6月のOB総会におきまして名古屋在住を大きな理由？に“会長をせよ”とおおせつかり、今まで長きにわたりOB会長をやってこられた、加藤康則氏の足元にも及ばない微弱な自分ではございますが、大任を引き受けることになりました。全国に散らばるOB、OGの皆様、現役の方々、今後もしも不手際、ご迷惑等おかけすることも多々あることと思いますが、どうぞこの機会に副会長の川田、事務局長の吉岡ともどもよろしくお願い致します。

ところで、一口に25年と言いましてもその歴史は決して順風満帆ではなかったことと思います。私が在籍した1980年前後ですら、サークルの運営をめぐる何度も部内での衝突がありましたし、冬合宿ではテント内で部員が大やけどをし、参加者全員がふもとまで背負って下ろす、という遭難まがいの一幕もありました。また、装備ひとつをとっても大幅に変化しています。今でこそ当たり前のラバーソール（フリークライミング専用の靴のことです。）ですが、20年前にはなかったし、『フリークライミング』という概念がアメリカから入ってきたのもつい10数年前のことです。事実、私が現役の頃は登山靴で岩登りをするのが当たり前でした。最近は御在所の岩場でもとんと見かけません。“ゴアテックス”の雨具？…昔は“ゴム引き”だったし、“ペミカン”？“キスリング”？…そんな言葉は今では死語となっています。

日本の高度成長の真っ最中、大阪万博のあったころⅡ部山岳部は生まれたようです。そして先輩から後輩へと脈々と受け継がれた活動は、遅々としながらもまがりなりにも【伝統】—この言葉を使うのが少し恥ずかしいのですが—をつくり、こうしてささやかな記念誌としてその歴史を振り返り、表現することができるまでに至りました。

OBの皆様のなかには今だに現役バリバリに山行をこなしている方も何人もいますし、日々の忙しさのなかにも山への憧れを抱き続けている方もきっと大勢いることでしょう。現役の方にも山に魅せられ、山一筋の部員もいるかも知れません。“親睦”もたしかに大事なことでございますが、忘れてはならないことは、OBと現役をつなぐ橋、OBどうしが出会った橋にはすべてそこに“山がある”、“山があった”ということではないでしょうか。寺山修司の『書を捨てよ、町へ出よう』ではありませんが、時には『仕事を忘れ、山に行こう』ではありませんか！

# 山行記録=クラブ企画山行=

(1983年度～1995年度)

## 1983 (S58) 年度

期間	山行目的	山域
4/18 5/15 6/5	オープン山行 新人歓迎山行 清掃山行	藤原岳 釈迦ヶ岳 御在所
11/12~ 13	四者山行	御在所
11/14~ 16	雪上訓練	富士山

## 1985 (S60) 年度

期間	山行目的	山域
6/2 10/14 10/27~ 28	清掃山行 オープン山行 四者講習会	御在所 入道ヶ岳 御在所
11/22~ 24	雪上訓練	御岳

## 1986 (S61) 年度

## 1984 (S59) 年度

6/3 12/15~ 17	労山・オープン 雪上訓練	御在所 富士山
---------------------	-----------------	------------

6/1 10/19	清掃山行 清掃山行	御在所 竜ヶ岳
--------------	--------------	------------

1987 (S62) 年度

6/7 8/3~7 10/3~4	清掃山行 夏合宿 清掃山行	御在所 鎌ヶ岳 南アルプス 白峰三山~縦走~ 竜ヶ岳
10/10~ 11	新人企画山行	
10/17~ 18	四者企画山行	竜ヶ岳
10/25 12/27~ 30	オープン山行 冬合宿	伊吹山 南八ヶ岳~赤岳~

1988 (S63) 年度

5/1~4	春合宿	中央アルプス 木曾駒・槍尾岳
6/5 8/14~ 18	清掃山行 夏合宿	御在所 北アルプス 穂高・槍 入道ヶ岳 仙丈ヶ岳
9/14 12/31~ 1/3	新人企画山行 冬合宿	

1989 (H元) 年度

10/10	オープン山行	竜ヶ岳
-------	--------	-----

1990 (H2) 年度

--	--	--

1991 (H3) 年度

6/2 9/23~ 24 10/19~ 20 12/25~ 28	清掃山行 新人企画山行 四者山行 冬合宿	御在所 奥三河 明神山 御在所 南八ヶ岳 (阿弥陀・赤岳 横岳・硫黄岳)
--	-------------------------------	---

1992 (H4) 年度

5/3~5 5/31 6/6~7 7/31~8 /5 10/4 11/22~ 23 12/24~ 27	春合宿 新人歓迎・オー プン山行 清掃山行 夏合宿 オープン山行 雪上訓練 冬合宿	鈴鹿(雨乞~釈 迦) 竜ヶ岳 鎌ヶ岳~御在所 南アルプス (甲斐・岐・北岳) 入道ヶ岳 中央アルプス (仙丈敷) 南八ヶ岳 (嶺・穂・阿弥陀)
--	--	---

1993 (H5) 年度

5/9	オープン山行	藤原岳
5/30	新人歓迎山行	霊仙山
6/6	清掃山行	御在所
8/2~7	夏合宿	北アルプス (鈴ヶ岳・双六岳・薬師岳)
10/3	オープン山行	鎌ヶ岳
12/23~ 24	雪上訓練	中央アルプス (千畳敷)
12/24~ 28	冬合宿	南アルプス (千丈岳)

1995 (H7) 年度

5/21	オープン山行	小倉山・養老山
6/4	清掃山行	藤原岳
6/6	新人歓迎山行	釈迦ヶ岳
7/31~8 /5	夏合宿	北アルプス (鷲ヶ岳・常盤岳・大天竺 嶺ヶ岳)
10/15	オープン山行	入道ヶ岳
11/2~3	新人企画山行	雨乞ヶ岳
12/24~ 28	冬合宿	南八ヶ岳

1994 (H6) 年度

5/29	オープン山行	入道ヶ岳
6/5	清掃山行	藤原岳
7/30~8 /4	夏合宿	南アルプス (観音・白根三山)
10/16~ 17	新人企画山行	御在所~鎌ヶ岳
10/30	オープン山行	竜ヶ岳
12/~24 27	冬合宿	南八ヶ岳 (阿彌陀岳・赤岳・蔵)

※お断わり

過去の山行報告書等から主なクラブ山行のみ掲載していますが、抜けている年度につきましては、資料が見つけれませんでした。



# アルバムから

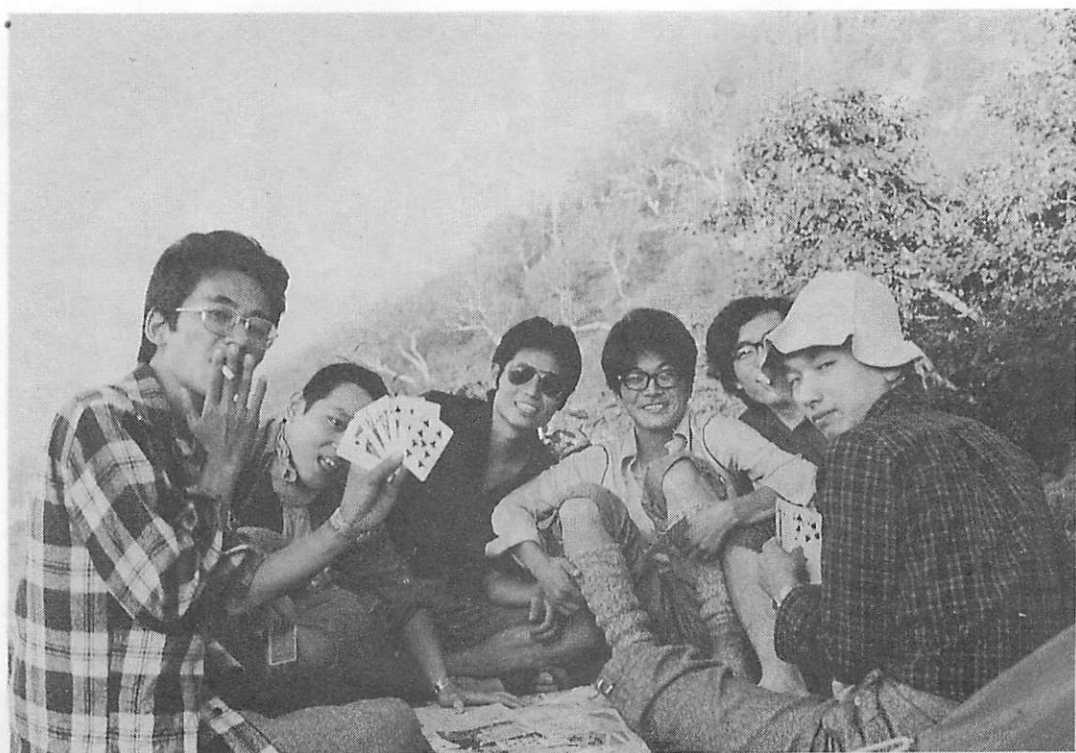


1994. 夏合宿





1977 (S52) 晩秋 伊吹山ボッカ



1978 (S53) 8月夏合宿 (男子)

早月尾根～剣山～仙人池



1980. 9月28日 入道ヶ岳 オープンハイキング



1981. 8/9~8/23 夏合宿 後立山 剣



1981. 7 / 24 ~ 26 槍ヶ岳



1982 夏合宿 北岳



1982 夏合宿 北アルプス裏銀座





1982 夏合宿 北アルプス裏銀座で



1987 北岳山行

1988 夏合宿 北アルプス裏銀座で



1992. 9月 槍沢の登りを行く。苦しくも、楽しい時である。

式に体負も軽式アJ強心よアうお臨>行アては負松野行



1993. 10月 奥穂高岳より、西穂ジャンダルムを望む。(見るだけ)





1993. 12月 冬合宿 冬の3000mだよ〜ん。  
行程が長いって行く前はとても心配してたけど良かった。



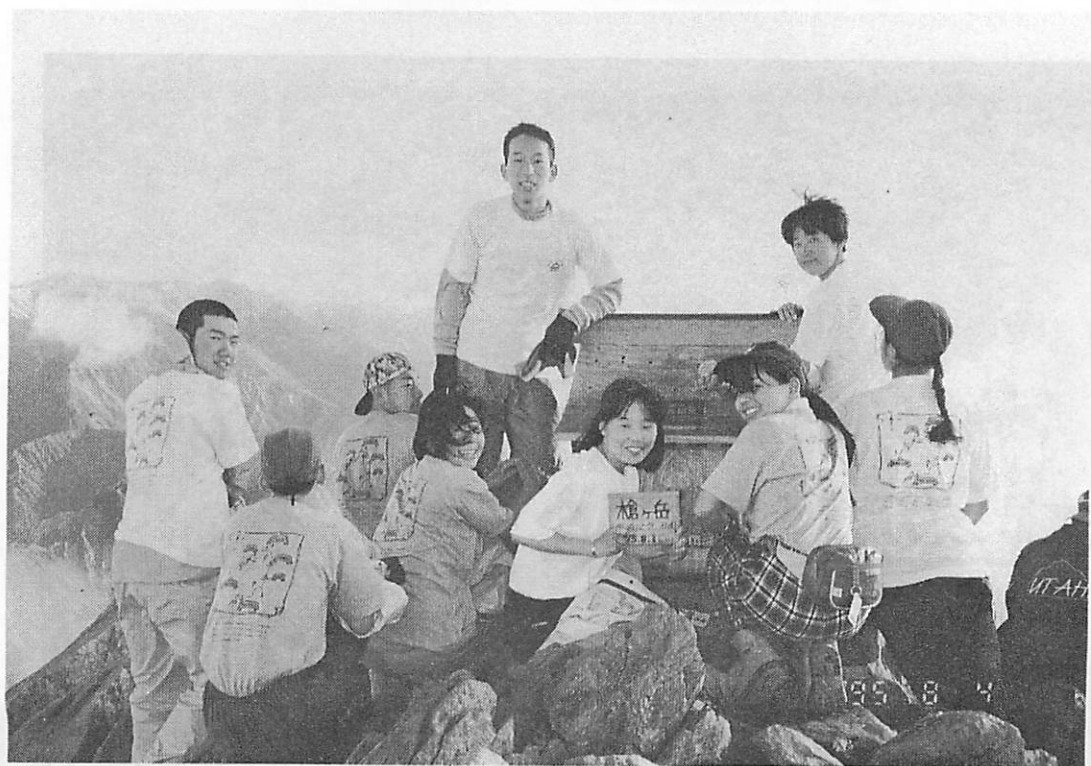
1994. 竜ヶ岳 秋のオープン山行 山岳部特製豚汁おいしかった〜！！



1994. 10 秋のオープン山行

↓ (ハロ)

この写真は「山溪」10月号の表紙に使われました？



1995年 夏合宿 “みんなでおそろいのTシャツを着て

「槍ヶ岳の頂上であ～やりやりだ」 (By 山本)





## 寄稿



1994. 5 乗鞍にて プロのカメラマンに指導され一眼レフで。

# 奥利根／宝川水系ナルミズ沢

## 上 越／巻機山米子沢

—1995年夏 上越の沢廻行記録—

高橋 憲常（81年卒）

山への意欲は溢れるほどあるのに山に行けていない。4月までは週末毎の雨のため何度も山行が流れ、5月の南アの合宿ではアプローチの崖崩れに遭遇して、急遽行き先を変更した。7月は夏風邪をひいて10日近くも寝込んでしまった。別に山が逃げて行く訳ではないのにチャンスや体力はどんどん逃げて行ってしまう。自分はどんな山がやりたいのか？沢登りなのか岩登りなのか、それとも百名山か海外登山か、これといった目標もないまま時間を浪費していつている。大きな目標が欲しい…と思う。氷河を抱くヒマラヤの高峰や奥深い山ひだを縫ってとうとうと流れる大渓谷…まだ見ぬ山々の憧憬は果てしなく続く。

### ◇ 奥利根／宝川水系ナルミズ沢 1995. 8. 4-5

ここ数年来、上越方面の沢が気にいつている。近郊のめばしい沢をおおかた登ってしまったこともあるが、上越のスケールの大きな沢に引かれてしまう。大峰、台高に入るよりも上越に入りたい。去年は釜川右俣、武尊沢、恋ノ岐川を廻行しイワナの美味さを知った。腹一杯イワナの塩焼きを食ってみたい！暑さを忘れて水と戯れたい！そんな願いをこめて上越に向けて出発した。

ナルミズ沢はつい最近までは忘れられていた沢だった。しかし、今夏、雑誌『岳人』に紹介記事が掲載されてからは状況は一変した。宝川林道最奥にあるこの沢に毎日のように沢屋が押しかけ、私達が入渓するつい3日前には3人の遭難者を出してしまったことは記憶に新しい。幸い今回の山行では2人の釣師以外、人に会うこともなく静かな廻行が味わえた。

林道の車止めゲートにある民家の主人と人悶着（釣師ともめるので沢登りは迷惑だと言われた）はあったものの予定通りうだるような熱さの中、ナルミズ沢に向けての林道歩きが始まった。2時間の林道と登山道歩きでウツボギ沢出合にでた。そこに“一番会いたくない”釣師がいた。これから廻行だということに何と運が悪いことか。聞けば大石沢出合まで釣り廻るということであり、下部の廻行をパスするのは残念であるが、大石沢までは登山道に行くことにした。沢は誰のものでもないが、もめるのはもっと気分が悪い。昨年、



大菩薩の小室川谷で釣師と一発触発の状態になったことがあった。これはいまだに後味が悪く、それ以後はできるだけ釣師とのトラブルは避けるようにしている。

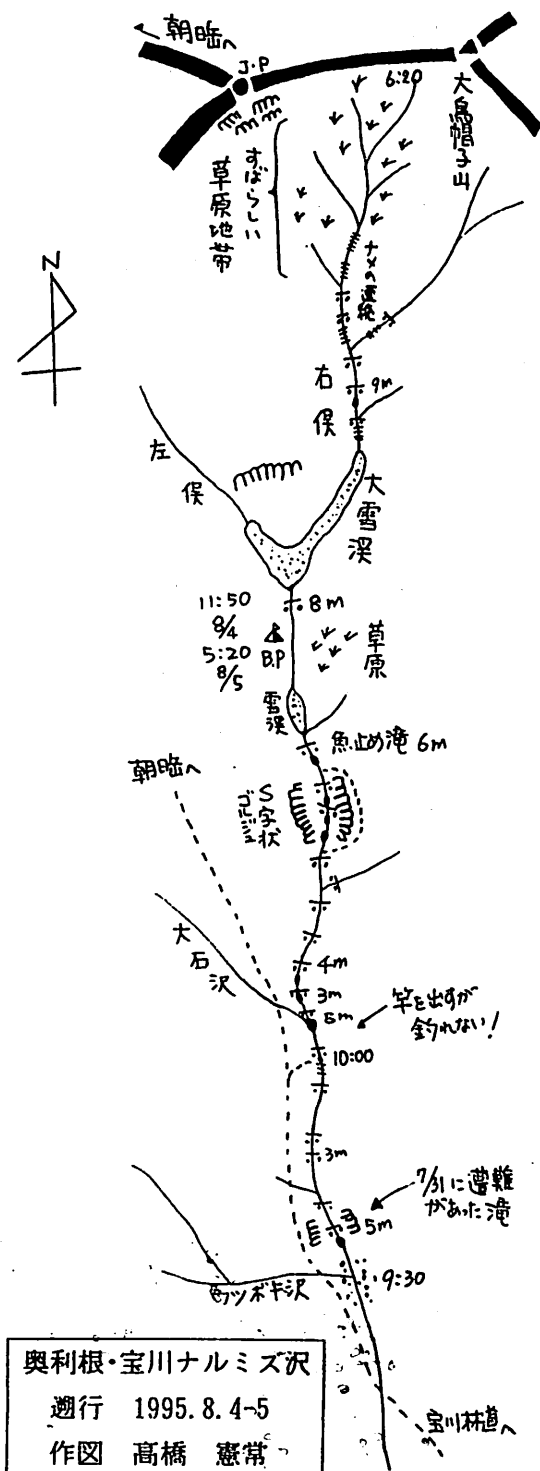
登山道を途中から沢に下り、大石沢手前の淵で竿を出すが無も釣れない。伊藤さんが毛針、私がキジ（ミミズ）で攻めるが、魚影が薄いのか、腕が悪いのか、今夜のおかずが上

がってこない。大石沢を過ぎるとナメや釜をもった滝が連続するようになり、時折、魚影がはしる。S字状ゴルジュを右のブッシュから巻き魚止めの滝（10m）を左岸から直登すると雪渓が現れる。それを越えるとすぐに広いゴーロとなり、いたるところに流木が転がっている絶好のビバークサイトになり時間は早いがツエルトを出した。

翌早朝、大雪渓が残る二俣から右俣に入る。雪渓は延々と続き、時折バックリと口を開けたクレパスが不気味だ。ズタズタの雪渓を細心の注意を払いながら登る。時々、大音響とともに巨大な雪のブロックが崩れ落ちる。今回のルートのおかげで一番緊張した場所である。

雪渓を過ぎるとナメ床状になり、水量も乏しくなってくる。見渡せば広大な草原と朝日岳に続く稜線、そして名も知らぬ高山植物。ヤブ漕ぎもないまま、源流から草原をぬけて稜線に飛び出す…まったく見事なセッティングである。

稜線から朝日岳へは谷川岳の一ノ倉沢の岩壁を眺めながらゆらゆらと歩く。ニッコウキスゲの黄色が目目に鮮やかだ。上越の山々も“今が夏”、“今が旬”なのだろうかと思いつつ、乾杯のビールの酔いも手伝ってしばしば頂上でまどろんだ。



### 《コースタイム》

8/3 名古屋 21:30 宝川温泉 3:00 車止めゲート 3:20 (仮眠)

8/4 (晴れ) 出発 7:30 ウツボギ沢出合 9:30 魚止め滝 11:30 二俣手前ビバーク  
地 11:50 (泊)

8/5 (晴れ) 起床 4:00 出発 5:20 稜線(ジャンクションピークと大鳥帽子山の間)  
6:20 朝日岳頂上 7:20~8:20 車止めゲート 11:30

※メンバー 高橋憲常、神谷幸志 (名証ACC) 伊藤政義、山本達也 (三浦会)

## ◇ 上越／巻機山米子沢 1995. 8. 6

当初の計画ではナルミズ沢を遡った後、谷川連峰の平標山南面に突き上げる笹穴沢を遡行しようということになっていたが、計画がコロコロ変わるのがこのメンバーの常、今に始まったことではない。谷川岳の白毛門沢がいいとか苗場山のサゴイ沢にしようかと二転三転した揚げ句、結局、メンバーの内2人が行ったことがない、かの“米子沢”になってしまった。上越の沢を語るに米子沢は外せない。私は1993年の秋、冷たい雨の中遡っているが夏の真っ盛りに遡る米子沢も悪くないだろう。

谷川温泉の露天風呂で汗を流した後、食料を買い、水上から関越経由で巻機山のふもと  
の駐車場に入った。もちろん途中でしこたま酒を買い込むのを忘れない。シートを広げて  
炎天下の中、いつ終わるとも知れない酒宴が始まる。冷や奴、ギョウザ、チンゲン菜と豚  
肉の油炒め、大盛の野菜サラダといったもの役者(つまみ)が揃ってくる。時折、ブヨにく  
われながら真っ暗になっても酒宴は続く。いつしか山での失敗談やら自慢話、30代(私)  
40代(伊藤氏)、50代(神谷氏、山本氏)の世代を越えた山仲間の宴は延々と続く…。

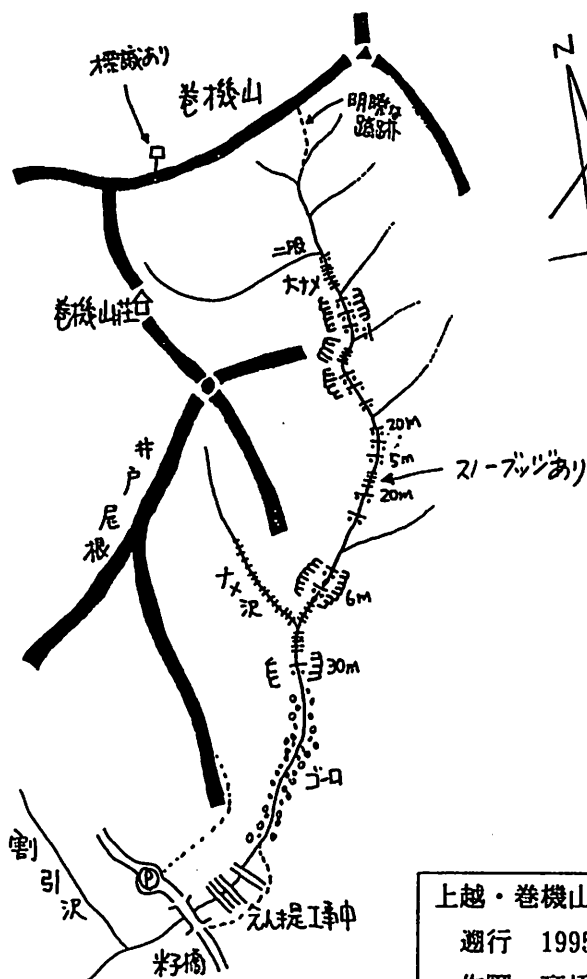
翌早朝起床。5時過ぎに出発。砂防ダムの工事現場を越える。以前来たときよりも山肌  
がえぐり取られ、沢の奥深くまで工事の傷痕が伸びている。それにしても何でこんな山奥  
までダムを造らなければいけないのか、まったく建設省がやることは理解できない。何年  
間かは地元の土建業者に金は落ちるだろうが、破壊された自然は二度と戻って来ないのに。  
長良川にしかり、赤石沢にしかり、中ア随一の美濃、片桐松川でさえダムの餌食になって  
いる。沢は年々変化する。自然の大きな力によってゴルジュが侵食され一瞬にして美しい  
ナメ滝が埋まってしまう。これはしかたがない。しかし、人間の勝手による自然破壊はも  
はや止まるところをしらない。我々、沢屋にとっての受難の時代がやってきている。

さて、米子沢であるが二度目ということもあって以前のような緊張感を味わうこともな  
くぐいぐい遡ることができた。下部ゴルジュ帯ではスノーブリッジが残る部分もあったが、

スケールの大きなナメ滝を走るように落ちる水がほてった肌に気持ちいい。そして一番のハイライト、“大ナメ”であるが、何度来ても素晴らしいではないか。まさに自然の造形ここに極まり、といったところか。一昔前ではワラジの感触をひたひた感じながらスリッパに注意し遡ったナメも、今ではフェルト底のウェーディングシューズで抜群のフリクションを利かし簡単に越えてしまう。もはや沢登りの世界で『ワラジ』は死語になっている。古き良き道具も機能と安全性、経済性をあわせた道具には敵わない。登山形態の中でも一番野暮ったく、泥臭い沢登りの世界も徐々に進化しているといえる。ただし、進化しているのは道具であり、必ずしも沢屋の技術、マナーが向上した訳ではないのは周知の事実である。

つつい話しが横道にそれてしまう。どうも沢登りの事となると一言いわずにはおれないらしい。大ナメを越えた後、二俣からルートを右にとり巻機山を目指す。ニッコウキスゲが咲き乱れる草原の急な斜面を抜けたところが巻機山の頂上だった。少し下った標識がある広場でビールで乾杯。真夏だというのに吐く息が白く、秋の訪れを招く赤トンボが翔んでいた。

#### 【高橋 記】



#### 《コースタイム》

8/6 (曇り)

起床 3:30

米子橋P出発 5:15

大ナメ 8:40

巻機山頂上 9:40

米子橋P 11:40

※ メンバー

前記録に同じ

上越・巻機山米子沢

遡行 1995. 8. 6

作図 高橋 憲常

## 山岳部時代を振り返って

木村久世（1976年卒）

学窓を離れて、早20年。まさに、光陰矢のごとしの感がしています。

私の山岳部へのあこがれは、高校の時からでした。高校のグラウンドで、ユニホームを着て重そうなリックを背負いリハーサルをしている山岳部員を、私は目の端にとらえて、羨望はつのるばかりでした。大きくふくらんだリックには、夢がたくさんつまっている様な気がしたからです。

親元を離れて、大学生活が始まり、生活も落ちついて来た頃、山岳部の存在が心にスーッと入って来ました。

山岳部へ入部して驚いたのは、先輩が二年生しかいなかった事でした。発足して2年目だった訳です。年功序列（？）にあこがれた処を持っている私は、何だか肩すかしを食った思いでした。でも、そこには学年の差も年令の差も感じない友達の様な交わりがありました。部室に行くとなにかいて、話ができるというのは、とても有意義でした。

何も知らない所から出発して、色々お世話になり、大方は皆の足を引っ張り続けだった様に思います。（ゴメンナサイ）

4年になり、もう一つの夢がむくむくと頭を持ち上げて来ました。それは、1人で外国を旅したい、外国の山を歩いてみたいという思いでした。フツフツと沸き上がっては、やっぱりだめだあをいう思いとの葛藤。でも、きつと行かなかったら一生後悔する、そう思っていた頃、森村桂さんの旅行記を手にした。「お金持ちでもなく、外国語がペラペラでもなく、さして美人でもない私」が行けたのだから、行こうと思えば誰でも行けるという言葉に、ビビッと電流が流れてしまったから、さあ大へん。誰も止め様がありません。さして美人でもないという所までおなじ私は、奮起してしまったのです。

山岳部は、海外旅行準備の為、4年になってからは、実質出来なくなり、退部をした事になっていますが、OB・OGの一員に加えて頂いて喜ばしく思っています。

アルバムを見ていると小6になる娘が横から覗き込み、「おかあさんも青春してたんだね。楽しそうだけどみんな狂ってるねエ。」と言った。

いつの間にか変色してしまったアルバムだけれど、開けてみれば20年前の私たちがそのままそこにいる。

「ほんとほんと」とあいずちを打ちながら胸が一杯になった。

剣岳を背にそろいのユニフォームで皆が笑っている。

ビッケルを持って得意そうにポーズをつけていたり、雪溪の中でラーメンを食べていたりする。

私が山登りをしたのは実質2年くらいだったけれど、かけがえのない時期を私はあの山岳部で過ごさせて頂いたと思う。

メンバーのひとりひとりが輪郭のはっきりした個性的な人たちで、私はみんなと登山することが楽しくてしかたがなかった。

山行中ティーバック一つから何人分もの紅茶を取り、なお次回に使おうとティッシュに包んで持ち歩いたことがある。

どこの駅でだったかボロッと落としたそれを駅員さんが拾って届けて下さった時は持ち歩いた当人共々恐縮した。

おかしくておかしくてたまらなかった。

貧乏なことは楽しく、変な人には興味深々だった。

女子だけで下宿に集まり白菜の鍋を囲んだ時、白菜の値札がスープにぶかぶか浮いているのがおかしくて皆でげらげら笑った。

写真に写った私達はまさに「楽しそうだけど狂ってる」人そのものだ。

夜行列車に乗り、駅で仮眠を取ること。懐中電灯をたよりに夜の山に分け入ってゆくこと。雨の山肌を両手をばたばたさせて鳥になってかけ下りたこと。

今思い出しても口元がゆるんでしまう。

先輩の〇〇さんと××さん（女性）はテントの中で一升瓶を一本づつ抱えて酒盛りをして、まったく崩れない酒豪だそう。

先輩の△△さんは山行中用足しに行く姿を一切見せない淑女の鏡だそう。

一人ひとりが伝説めいたものを持っていて、恐れたり憧れたりした。

初めて御在所岳の岩場に連れていってもらった時はオーバーハングを猿そのもののよう

に自由に行き来する素足に藁草履の怪人に心から驚いた。



「色々な人が世の中にはいる…」田舎の女子校しか知らない19才の私には見るもの知る人が新鮮だった。

宝物の箱を開けたように次々と情景が浮かんで来る。

誕生日を祝ってもらった。嬉しかった。

飲み会をした。楽しかった…。

でもいいことばかり書くと当時のメンバーのみんなからは呆れられるかもしれない。

恥ずかしく迷惑だった自分も同時に思い出して壁に頭でもぶつけたくなってしまった。

ごめんなさい。

借りたものを傷つけてしまったこと。

下山途中で足をくじいて帰りがタクシーになってしまったこと。

人の気持ちに鈍感で傲慢だったこと。

元気だけはよくてもあっちこっち未熟で結局みんなにおんぶしていたこと。

岩場をザイルで引き上げてもらったこと。

その他ちょっと恥ずかしすぎて痛すぎてここには書けない沢山のこと。など。

もし覚えていたら、そう、あのことですから、許してくださいね。…お願い。

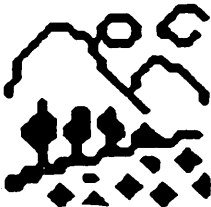
でもね、感謝しています。あの季節に。

山登りを教えてくれて、あの季節を一緒に過ごして下さったみんなに。

今振り返って見るとあのころのみんなも自分も愛しくて、アルバムを見ながら幸せな夢を見たような気持ちになりました。

大胆な寝相を披露している中二の息子と小六の娘に「楽しくて狂ってる」季節が来るのはいつのことだろう。

その時をちょっと覗いてみたい。石を投げられるかもしれないけれど。



いつもお便り下さってありがとうございます。

山岳部からのハガキには、青春の香りがする様です。

高校時代から山が好きで大学に入ったら山岳部と決めていました。福祉大に入って山岳部があったので嬉しくてすぐ入部しました。

大学1年の頃は学生寮に住んでいて、ゲタを履いて坂道を下ると学生会館でそこに2階（3階だったかな）に山岳部の部室がありました。

アビルさんやナスビさん、加藤さんやミンミンさん、ジョーさんやカメちゃん、落合さん、他にも名前は忘れてしまいましたが（申し訳ありません）個性的なメンバーが揃っていて私の大切な思い出です。狭い部室で合宿したり、山行の話し合いや学習会をしたり、用も無く立ち寄りたりしたものです。ドアを開けると、無類の山好きの人達の底抜けの明るい顔がありました。

山の道具のちょっとカビくさい匂いがプーンとしました。冗談ばかりの楽しいメンバーで私は、いつもいつも笑いころげていました。何もわからなかったので、先輩たちがすごく大人にみえて憧れていました。

山って本当にいいですね。

いくつになってもいえ、歳とともにもっと好きになります。

5年前、ちょっと大病をして、手術をして、体力が衰えてしまいました。

それでもリュックを背負い電車に乗ると、軽い山行ですが心がはずみます。

段々に子供達も大きくなったし、私の体力も回復しつつあるのでそろそろ、アルプスに行きたいなと思っています。

山に入ると、人間も自然の一部なんだなと、思いますよね。心がホッとします。自分が自然の中に溶けていく様です。

三人、男の子がおりますが、一人位、福祉大に入って山岳部に入部してくれないかなと、思っています。

長男は来年、大学受験です。

三男は、ボーイスカウトに入っていて、キャンプなどでの体験から山好きになってくれるかもと期待しています。

中々、華々しく山行できないのですが、細く、長く山とつきあっていきたい、です。

これからも山岳部の山行のスケジュールなど教えて下さい。楽しみにしています。みなさんの山行に私の思いを重ねてワクワクしています。

今回、一泊旅行には参加できませんでしたが又、なにかの機会に是非お会いしたいです。いつもいろいろ、OB会のお世話をして下さって本当にありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。

緋瀬 博子

山岳部創設25周年おめでとうございます。25年間と言うと四半世紀、10年いや 5年一昔といわれる昨今、Ⅰ部ならいざ知らずⅡ部でよく続いたなあと言うのが正直な感想です。

しかし、よく考えてみるとⅡ部だからこそ山への思いが膨らむのかなあとも思います。そう言った私も卒業してより早や15年の年月が経ちます。そして4年間の山岳部時代の思い出が、今思いかえしてみるとそれこそ山のように蘇って来ます。

私がまだ福祉大が垠中にあった頃、あの小汚い学館の山岳部のドアを叩いた時、まだ山岳部は出来てから 7年そこそこのクラブでした。

当時この部室を根城としていたのは、部長だった「カンダイさん」こと粉原さん、その前と前々部長で、山岳部の建武の中興をやりとげた「ジョーさん」こと矢吹さん、そしてこのジョーさんと共に「首吊り荘」仲間だった、「理科系さん」こと加藤さん、「カズさん」こと柏原さん。方向音痴の「トンちゃん」こと賀川さん、山行中泣き通して鈴鹿の夜間山行を一人でやりぬいた石坂さん、ミス着物の佐藤さん、滝谷で落石をアゴに受けてヘリで救出された片岸さん、涸沢山荘のバイトを逃出したもののヘリに乗せてやるという言葉に騙されて再び舞い戻ってしまった縣さん、ランニング後胸の谷間に汗が流れ落ちるのが唯一の田巻さん、頑張屋の「ベロ」こと野村さん、中島みゆきが好きだった今は亡き「ヒラメ」こと西さん。と言った壮々たるメンバーが揃っていました。

はじめの山行はどこだっただろうか、当時の手帳をひっくり返してみるがよく分らない。おそらく仕事と授業とキャンセミと個人的な付き合いなどで、前半は真面目な部員ではなかった様な気がする。夏の合宿（槍～双六岳～野口五郎岳）参加の為に、当時勤めていた大学堂（鶴舞の古本屋）のおばちゃんと喧嘩をした覚えがあるのだが…。合宿の山行では、三俣蓮華頂上付近で濡れ鼠になり寒さの為震えが止まらず、着ていた木綿のアンダーシャツを脱ぎ直接毛のセーターを身につけて一心地した事が忘れられない。

当時、ジョーさんや片桐さん中心に岩登りを行い始めていた。当時の山岳部の登攀ゲレンデは御在所岳藤内壁だった。他に定行寺の岩場、鳳来寺の岩場にも何回か行った覚えがある。しかし、何と言っても思い出深いのは藤内壁だ。湯の山温泉のバス停からの道を何十回往復しただろうか。大抵、夜のうちにテン場に着き酒を飲んでの宴会になる事が多かった。目や身体で道を覚えると言うより、足の裏で道を覚える事が出来た最初の経験の場でもあった。特に一壁はルートが右による程難易度が増した。当時のⅡ部山岳部では、左トラバスルートをトップで登れば、とりあえず岩は一人前と見なされた様な記憶がある。同じ御在所でも、前尾根と聞くと気分は快適で前夜の酒が進み、中尾根だと少し緊張感があり、バットレスあたりだと少し胸が重たく、一壁の左トラバスや右トラバスと言う事に

なると、もう明日は明日の風が吹くとばかりに焼け糞になっていた様に思う。

先日の25周年の会での話によると、奥のテスト岩が崩れ、バットレスの岩も崩壊が著しいとの事、前尾根の1ピッチ上の木が折れてしまったり、左トラバスの浮き石が落下してしまった事は知っていたが、大自然の営みの移り変わりや時の流れの速さを改めて感じさせられた。

私にとって御在所の岩場との出会いは、山岳部の前に所属していた「奈良登攀クラブ」での冬期の岩登りから始まる。山のいろはも知らない時にいきなりアイゼンを履かされ、アイスバイルとアイスメスを両手に持たされ、ただただしゃにむに登らされた思い出の場所でもある。そして一壁のルートを前に登っていたパーティーが滑落、スノーボードと共に藤内小屋まで降りてきた記憶が、今では霧に霞んだような状況で記憶の底に残っている。

当時の私の心はとても複雑だった様な気がする。いつ滑落して死んでもいいように、出発前は部屋をきれいに掃除をし、下着をいつもきれいな物に変えて出かけた。岩が怖くもあり、魅惑的な存在でもあった。登攀クラブのホームゲレンデは、赤目四十八滝の奥の尾根を越えた小太郎岩だった。下の道から見上げるライオン岩の雄姿が今も目に浮かぶ。下部はアブミの掛け変えの人工だが、上部がフリーになるルートが多く気持ちの切替えが微妙な所があった。そしてピークで吸う煙草の旨かった事。小太郎岩の左ルート上部で、いやらしい部分があり、手を離せないと言う心理状態が働いたからなのか、そのまま右手の指がつってしまい、つった状態が逆に身体を支えるという結果になって助かったという事があり、人の生命に対する無意識の力を感じさせられた事もあった。しかしながら、当時私は常にパーティーのお荷物状態だった。「縦走から厳冬期の山を含めたオールマイティーの山を目指す」と言う言葉に軽い気持ちで乗ってしまったのだが、ゲレンデ通いはまだ楽しかったし…、夏の剣の岩場あたりまではついて行けたが、厳冬期の滝谷、八ツの大同心・小同心、谷川一ノ倉沢あたりになると、もう恐怖の絶頂で海外に行こうと言う話もうわの空と言う感じ…。調度名古屋の福祉大に入ると言う時期と重なり、登攀クラブは退会したが、その時のメンバーの人達はどのようにしているのだろうか、山の食糧は常にインスタントラーメンかジフィーズばかり、福祉大の山岳部に入り食糧の豊富な事とペミカンなるものの存在に驚ろかされた記憶がある。

今から考えれば、登攀クラブのメンバーは先鋭的な人ばかりだった。常にヘルメットの裏にはボックリ寺のお札を貼っていたし、結婚したら退会という規則もあった。

しかし、私にしてみれば目の前にあったのは山の楽しさではなく、山の厳しさ、恐ろしさ、そして冷たい魅力的な力だった。

正直に言って、福祉大の山岳部に入ってホットした。山はまず楽しむものだ、と言う事を教えられた。私の山に対する選択の仕方が間違っていたとは思わない。しかし、最初の山との出会いが、楽しむ余裕もない先鋭的な岩中心のものだけだった為、私の心のどこかにマイナスの要因となってしまった事は否めないと思う。

今になって思うと私のような人間は、始めはⅡ部山岳部のような山を楽しむ山行から序々にグレードを上げていけば良かったかなと考える。しかし、自分の存在を何か大きな力にぶつけたいと言う気持ちは若さの特権かなともいまさらながら思うが、ただ自分の力を知らなかったと言う事になるだろうか。

福祉大卒業後は、年2～3回のローベースでの山行を行っているが、登攀クラブ時代のただただ、先輩の後姿をついていく状態から、山岳部で2年時より逆に後輩を引張って行かなければならなかった経験を通じて、ようやく「自分の山」が見つかりかけたと言うことが一番の収穫だったと思う。

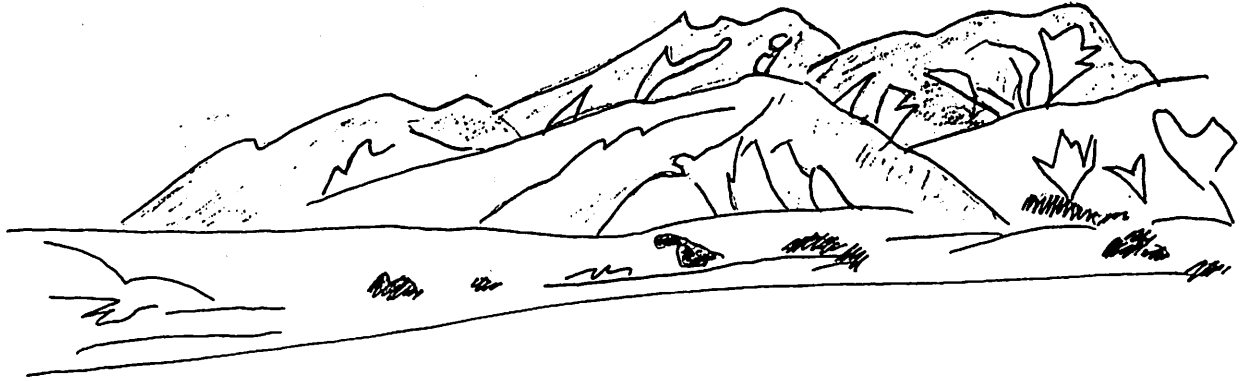
先日、山岳部創設25周年の総会のなかで、高橋がOB会の会長、川田が副会長、吉岡が事務局長に選出された。OB会の流れのなかでは、阿比留さん、矢吹さん、加藤さんを中心とした古参グループと、今回役員に選出された中堅グループと、現役の部員を含む新しいグループとが一つになって、互いの交流、情報交換、支援体制の確立などが作りあげられていけばと願っている。今回の「祝う会」を企画・運営した、加藤さん、坪山、山崎、川田、吉岡、そして現役部員、ほんとうにご苦労様でした。今回の「祝う会」がよい意味でのターニングポイントになる事を祈っています。

そして、私にとってのⅡ部山岳部との出会いとは、いろんな人がいて、いろんな山が在って、いろんなアタックの仕方がある、と言う事をこの様々な人や山との出会いを通して学ぶ事が出来たことだと思う。そして何より私の心象風景の中に常に山が在る、という事を私の生涯を通じて言い切れることが出来る自信が持てるようになったという事が何よりの宝だと感じているこの頃です。

おそらく今後一人でテントを抱えて山に遊んだり、子供と共に行く山も増えてくると思う。友と山を讃で語らいながらの山行も出来たらなあと思っている。

そんな山を好きにさせてくれた福祉大の先輩や同僚、後輩に改めてお礼を言いつつ私の拙い文章を終えることにします。





愛らしい花、かわいい小鳥たちを見せあげたい、

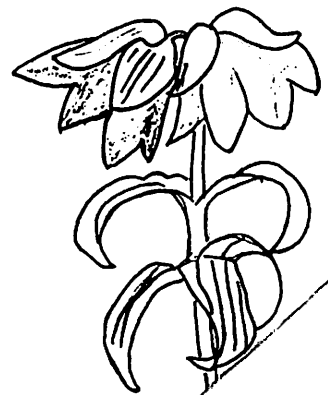
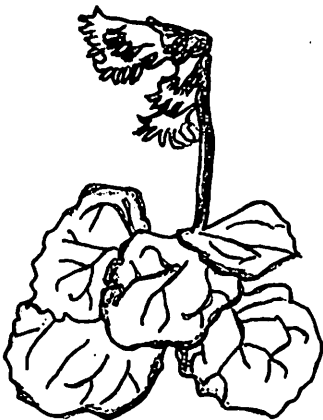
川のせせらぎを聞かせあげたい、

今にも落ちてきそうな満天の星空を見せあげたい、

手がちぎれそうなほど冷たい川に触れさせあげたい、

山のにおいをかかせあげたい、

私の小さな娘に……



森千恵子

(カトバン)

○寄稿○

# 大切な「山」との付き合い

井上 寛



はじめに

私は、日福大Ⅱ部山岳部に、九七六年四月から一年間所属していた。ただ、六九年の創部というのは知らなかったし記憶にもなかった。しかし、そうすると、今年九五年はすでに、五周年を過ぎているが？ま、いいかあ、せっかくの機会だし、過去のあの時代に少しタイムスリップでもするとしよう。高校時代に始まった山岳部の現役、それ以前の「山ザル」時代に少しだけ――。

\*\*\*

一〇代後半まで、私はおよそ都会生活には縁遠い「山ザル」だった。中国山地の広島の山里を生活圏として、想えばのんびり過ごしていた。一歳の時、当時、国民休暇村やスキー場などの姿形は全くなくて、観光・登山客を受け入れる商業施設さえも殆どなかった。そんな郷里比婆郡の、国定公園内「吾妻山（二二三九m）」の登山で初めて「山頂」に立つ経験を味わった。それから数年後、友人に誘われて入った高校山岳部で、鳥取・大山（二七二九m）や県内の山々を歩き、七三年が三重・大杉溪谷、七四年は福岡・英彦山系（二二〇〇m）へ全国競技登山大会に二回チームで選抜され参加した。

その後、この時期に人生の大きな挫折があったり

して？七六年四月、名古屋市昭和区へ居を移し、まだ地下鉄の工事前だった坊中の日福大入学とほぼ同時に、ごく当たり前前にⅡ部山岳部へ入部した。

そして、四月の笠仙山日帰りハイクの後、いよいよ入部後初めての泊まりがけ山行となる五月の大連休だ。中部山岳○○○級級の乾いた岩稜線への強い憧れが、すでに名古屋に来ることを決めた時点からあった私は、どこの山城へ行くのかを部長に尋ねた。曰く、「ボクらのゲレンデは、鈴鹿なんだよ」と明快であった。しかし、すでに高校の時から、中国山地の標高○○○級級低山の笹薮ぼうぼうで泥まみれ、そんな上臭い山ばかりに登っていた（大山を除き、そんなものだった）。だから私は、同じような鈴鹿へはちつとも行きたくない。しかも、せっかくのゴールデンウィークだ。と、まあその当時わがままに思ったものだった。が、それでもみんなになだめすかされ、素直に私は参加することにした。

リーダーの計画では、鈴鹿峠から藤原岳まで北上する前夜発三日間の鈴鹿縦走。とてつもなくハードな山行計画だ。前日深夜、鈴鹿峠をかなり登った所で真つ暗闇の中のテント設置。一日目、顔面スリ傷だらけの疲れ。二日目、ガスで視界は数分。鈴鹿の景色なんぞは何も見えない。風雨はビュビュゴォーゴォー。登山靴の中までグチョグチョ。しかし、ズブ濡れになっても前進あるのみ。でもやはり、稜線上は初めて体験するすごい暴風雨。武平峠の平坦な樹林帯にやむなく退避しテント設置となる。私の共同装備は土色と言うほうが相應しい重い

三角テント。しかも、持たされた時からフライシートはない。翌日、早々に下山するより他なかった。みんな濡れ鼠だ。これが最初の、鈴鹿山中薮こぎ地獄と雨地獄の巻だった。

しかし、なぜか皮肉にも、この山行が、その後、一年間の山岳部時代で、北アや冬の御岳山行などよりも一番強く印象に残っているから不思議なものだ。退部してからも、部の一部のメンバーとは何度か山行を共にした。その中で、二年後の三月中旬に出発した柴宮一男さん、野村真砂子さんとの南ア・小渋川廻行（赤石岳山行（前夜発三日四日）に、今も鮮烈な映像が記憶として残っている。

山岳一帯の風雪には、まだ真冬の寒気が肌を刺し、主峰赤石岳山頂からの東の間の夕焼けには、言葉に尽くせない隔絶された銀世界の、孤高の美しさがあつた。静寂の中、冷気深く白き眼前の峰々は雄大にそびえ立ち、残照に赤く映えた荒川岳は、積雪期の険しく厳しい威容を誇っていたものだ。

このお二人とはその前月、厳冬期の中ア・千畳敷カール、木曾駒ヶ岳に登っていた。

\*\*\*

今年、正月早々にTVに報道された千畳敷カールの雪崩事故の記憶が頭の片隅にあつたことも手伝い、つい先日そこへ行ってきた。数年前の春スキー以来で、仰天するほどの観光客のいる夏山シーズンが初めてだった。

私とその企画を立て、仕事関係の集まりで、大人九人、子供一人の一〇人の団体になった。駒ヶ岳

ロープウェーを使い、念願の天体望遠鏡を担ぎ上げ、駒ヶ岳と中岳の鞍部の頂上山荘に泊した。深夜、宿泊者が寝静まっている中、密やかに、私達は主目的の満天の星に大歓喜し満足した。翌朝、十数年ぶりの駒ヶ岳頂上からの日の出と三六〇度の大パノラマで、一時、下界の心が洗われる。そして快晴の真夏の宝剣岳、極楽平から千畳敷へ下り、帰路、駒ヶ根ソースカツ丼を腹に納め帰名した。

\* \* \*

二年前、『旅立ちの記』（本多勝二著作集第一、回配本）という本で、この筆者が高校山岳部時代までを住んでいた伊那谷から登った南ア・塩見岳や中ア・南駒ヶ岳などの山行、そしてその後の大学山岳部時代の山行、その一九五〇年前後の詳細で綿密な「山」を綴った文章に巡り合った。それを読んだとき、二〇数年前の高校山岳部時代からそれなりに傾けた私自身のささやかな情熱や想いが、名古屋に米てから二〇代前半までに登った南アルプス、中央・北アルプスなどのその山行の幾つかの情景が半ば二重写しとなった。そして当時の、私自身の「山」の体験、その「登山コース」の一つひとつが甦り、新たな発見さえも幾つかあり、近年にない読者の感動をその山の本によって覚えた。

しかしいま、情熱を傾けた時代は過ぎ、その社会生活の必要から「山」に求める私の現実も変わってきた。年月は、容赦なく中年の体型と体力作りに貢献し、山もそれなりの平凡な楽しみに変わり、スキーやハイキングなどへ年に一、二度出掛ける程度

になった。だからいま、岩登りや、テントをザックに担ぎ何日も歩く縦走登山などは、殆ど過去の思い出の中だけになっている。考えてみれば、一〇一〇〇代に行っていた「登山」は、「山」を相手にした未知の体験や発見が幾つもあり大きな楽しみだった。が、半面、自分自身に向き合わざるを得ないかなりの苦行も伴っていた。その意味では、「オウム」ではないが多分に「修業」でもあったのだろう。

九九年の秋、前述の本に巡り会う二カ月前、愛知県瀬戸市の「海上（かいしよ）の森」を歩いた。物見山（標高三三三）からは、西に名古屋のビル群を始め濃尾平野の街並みが遠望できる。二〇〇五年の万博立候補地として、TVなどが大きく取り扱うようになるまで以前のことだった。大都市近郊のこの平凡な山は、一帯の自然はどうなるのだろうか、都市生活に埋没しがちな日常から、自分自身の問題として考えてみようと思った。海上集落に住む鈴木さんは夫婦で稲刈りの真只中で、赤米黒米の稲穂を手に取り、この時初めて見せてもらった。

じつは、以前から、ゴルフ場・スキー場の乱開発、小型戦車のような軽油燃料のクロカン四駆車の急増、マウンテンバイクでの登山道への侵入など、山へ乱入し、大自然の命を侵食していく人間たちの増加に、私は少なからず憤懣やる方ない気持ちだった。今では何処にいたって、山のでっぺんでも都市型生活を営む現代人だ。文明の人工的な建造物や派手な道具立てや大仕掛けの中で、より多様な強い刺激を求めて遊ばないと余程満足できない。同様にそ

れを自然の中へ延長し山の中へも求める。自然の息吹に謙虚に素朴に向き合うことなどなかなか出来なくなっている。「山」のレジャーが一般大衆化したいま、そんな我ら現代人に、分かりやすくそのルールを提示しストップは確実にかけなければと思う。

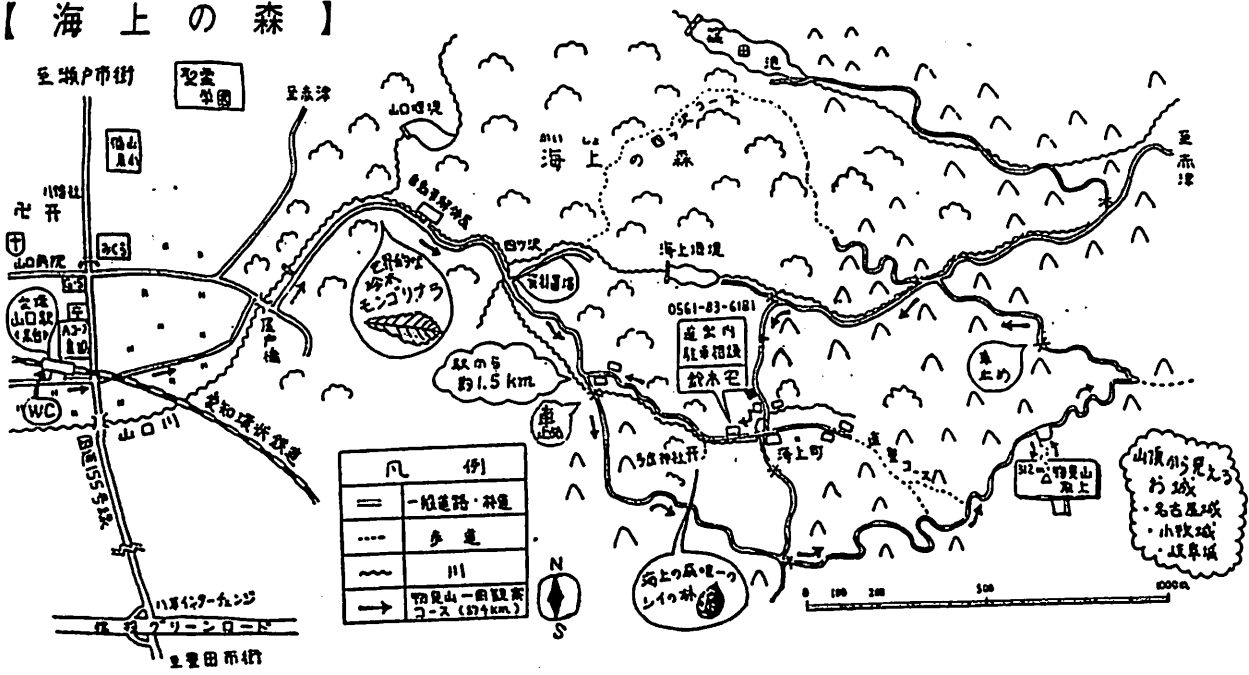
そういえば、II部山岳部時代、積雪期の木曾駒上松道五合目で、何人かがウイスキーの大瓶を担ぎ上げ、山行のことも考えず同じテントの中で酒宴が延々続き、翌日、何人かの二日酔いが影響し、予想以上の積雪もあり順調に前へ進まずに途中で下山しなければならなかった、ななとも虚しい山行を思いだした。そんな若い時代の、他人を支配する山行に同行を余儀なくされることも、今思えば二年で部を辞めていった要因の一つだった気もする。

\* \* \*

かつてそうでなかった山も、今はいつ何処へ行っても人がいっぱいいるらしい。昔、記録映画やTVの特別番組で見えるくらいだった岩と氷雪の険しく厳しい山岳登頂ドキュメントや、四季折々の日本アルプスの高峰の映像も、いまは定時のTVニュース番組などいとも簡単に、山小屋風景などと共に間近に飛び込んで来ることがよくある。そんなことも、登山人口が急激に増えた一因でもあるのだろうか。しかし、大切にしたい山の空気を自然の営みは、やはり、平凡な自然環境の中にも楚々としてあるものだ。私は、いま、日常を過ごしている名古屋市の近郊の里山「海上の森」に、その「山」の原点とテーマがあるように思っている。

(七六年度所願・いこうえさとる)

# 【 海 上 の 森 】



窪田 陽子

このごろの豪雨で、ひとつ思ったことがあります。小谷村、白馬村はひどい災害でしたが、一人も死亡した人がいなかったのはすごいと思いました。それは、豪雪、地すべり、てっぼう水といつも自然災害でいたみつけれられている、いつもお酒飲んでニコニコしているおじいちゃん達が経験してきたことから、ピリッとして自分たちで考え、行政より先に動けたことがとてもよかったようです。人間はつらいこともあって、それを榮ようとして強くなっていくし、人間が生きていく時の力は経験による知恵なんだろうなと思いました。そんな知恵を身につけていきたいなと思いました。

皆さんが山から降りてきたら、きつといい顔しているでしょうね。

白馬村でも日に焼けた荷物のかついだ若者をみるとうらやましくなりますが、なにに年相応の山登りがあるさと、自分をはげましているんですよ。山を通じて、友達を通じて、いざというとき動ける知恵を身につけていきたいですね。がんばってください。

# 白馬三山一日駆け足縦走

山 崎 保

創部25周年おめでとうございます。卒業後も、正月は山の上と決めて十数年続けてきた冬山が、数年前から途絶えて、だんだん山から遠ざかっていただけに、自分にとっての山をこの機会に振り返らせていただこうと思います。

十周年の無名峰をまとめた山岳部当時、迷いながら求めた山岳部の山登りの方向のひとつが、4パーティーによる南アルプス夏山合宿でした。より多くの部員が参加して、それぞれが役割を果たして満足のいく山行をするとともに、部としての一体感を得るために、20人が4パーティーに分かれて縦走や沢登りを行い、三伏峠に集まるという形態でした。山を求める方向（山に求めるもの）が、ちがっても、みんながより多く参加できる山行をということで企画した夏山合宿だったと思います。岩や冬山へのチャレンジと山岳部のまとまりとの間で、いろいろと試行錯誤の活動をしていたのが懐かしく思い出されます。

4年の春に退部してからは、夏のスイスアルプスや、冬の赤石岳など、おもに単独行で続けてきました。卒業後も仕事に悩んで、剣の八ツ峰の岩に1人で取り付いたことも、正月の鹿島槍に新しい年の出発を期したこともありました。いつだったか、冬の槍沢でラッセルに疲れて引き返してきたこともありました。年に2、3回しか登らない山は、自分の心の節目みたいなところだったように思います。

さて、タイトルの「白馬三山1日駆け足縦走」ですが、これは、昨年10月に、猿倉から大雪溪を登って、白馬岳・杓子岳・鑓岳をまわり、再び猿倉まで1日で駆け抜けてきた山行です。10月8日に車で北陸経由で白馬の麓まで入り、あの中日と巨人の10・8決戦をラジオで聴いていた翌日です。仕事の疲れや中日の負けた悔しさ？を山の温泉でときほぐそうと、白馬三山をまわって鑓温泉小屋に泊まって温泉につかる計画で出発したのです。

とてもいい天気で、山行には恵まれました。紅葉を見ながらの大雪溪の登りは快適で、見上げる杓子岳が雄々しく、いつもここを通るときは下りばかりだったので、新鮮なビギナー気分で登って行きました。さほど疲れもなく、まだまだ歩けるなと思いつつ、白馬の頂上から杓子へと午後の登山道を1人歩き続けました。鑓岳の下りから足が疲れてきているのを感じてきましたが、もう少しで温泉だと自分に言い聞かせて歩き続けました。思ったよりも、かなり下ったのでしょうか、やっと鑓温泉が見えてきました。しかし、なんと白馬鑓温泉小屋はシーズンオフですでにたたまれており、テントもヘッドラも用意していなかった私は、ピンチ

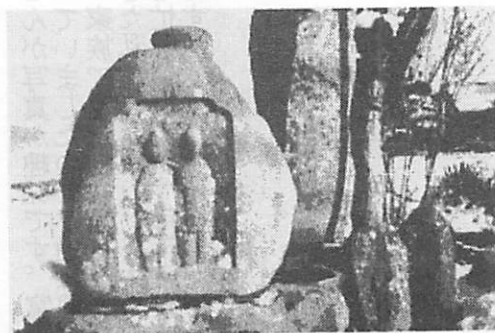


にたたされたのです。温泉につかってのんびり過ごしている登山者をしり目に、暗くなるまでに何とか猿倉までたどり着かねばと、駆け足の下山になったのです。やっぱり山に入るときは最善の装備をと思っても後の祭り、結局、暗闇に目を凝らしながら猿倉に何とか到着しましたが、温泉につかりそびれてしまったのです。

それでも温泉をと、翌日、目をつけたのが雨飾温泉です。車を走らせて、露天風呂に入りに行きました。雨飾荘の露天風呂につかって紅葉の山を見ているうちに、またまた登りたくなって、サブザックをかついでいました。雨飾岳は、一休みした沢から見上げる紅葉が岩場に映えてとても美しく感じました。そこからが急登だったのですが、山に魅せられて登り続けました。残念ながら、頂上に着いたときはガスって小雨も降ってきて展望が開けませんでした。また訪れてみたい山になりました。この2日間で白馬三山・雨飾岳をまわって、久しぶりに山に登った満足感がありました。

ところで山とは不思議なものです。教師の仕事について15年目になりますが、今までにテントを持って2、3人の生徒を連れて山に登ったことが、3回あります。その3回とも、山から帰って彼らの生活が一変してしまうのです。歩きながら、そしてキャンプしながら時を過ごす中で、心を開いて語り合えるからか横着な生徒が素直になってしまうのです。山という自然の力を生かしたスクールカウンセリングをすすめて、その道に進もうかとも考えています。

ほぼそと山登りを続けている現在ですが、単独行から、もう少し何かしら繋がりというか、共に楽しめ、山を通してふれあえるような山を増やしていくのかと思っています。それが、ファミリー登山的なものになるか、野外学校的なもやカウンセリング的なものになるかはわかりませんが、自分の気持ちの中に、山の存在をしっかりと置いておきたいと願っています。



# フアミリー登山

(那須岳一九一七m)

風間 淑子(旧姓三橋) 81年度卒

二部山岳部創立25周年おめでとうございます。私は、76年〜81年ごろ在籍していた部員です。

チャップとよばれていました。山崎君を中心にして、無名峰10周年をつくったのをおぼえています。また、冬合宿のあり方に、男子部員と女子部員で議論もしましたね。思い出はいっぱい。そしてそのころが懐かしいと同時に私の青春時代の宝物……。

卒業してからも、友人、主人、こどもたちとゆっくりと登っています。

友人とは南アルプス(北岳・塩見岳)。そして結婚してから、主人と尾瀬・燧岳・日光・白根山・秋の涸沢に登りました。長男・勇児一才の時に、天神平から谷川岳に登りました。(その折、下山途中の猪又先輩に会いましたね)勇児四才、次男・康児二才。平成5年10月中旬那須岳に登りました。ペンションをのんびりと9時ごろ出発し、那須岳ロープウェイの駐車場に車を置く予定でしたが、満車状態。次の駐車場へ車を置いて、ちょうど那須岳登山道の脇だったので2時間30分の登山道を歩くことにしました。康児は主人の背中に背負子、勇児は私とのんびりと歩いたね。勇児は虫が好きなので最初は虫を探しながら平坦な道を歩き、それでも2時間は歩いて峰の茶屋に着きました。そこからは紅葉した朝日岳がよく見えました。イオウの匂いのする登山道をゆっくりゆっくり歩く。頂上はみえるけど、だんだん道も急になっていく。

「もう、ぼく歩けないよう」と勇児。みると本当に四ツ道になって歩く。仕方なく康児と交替、15分ぐらい勇児も背負子に。すれちがう登山者から「坊や、もう少しで頂上だよ。」の言葉。本人(勇児)は頭がボーっとしはじめ。

頂上分岐。残念ながら母だけで頂上踏む。下りは、じやりと砂だらけの道を下る。気を付けないと危ない。ロープウェイ駅が見えるところからガスがかかってきた。2時頂上駅着。帰りの車中で勇児のよく眠ること。ほんとうに勇児はよく登ったなあ。

平成6年4月中旬、勇児四才・康児二才、筑波山登る。康児も歩いて登る。新緑に囲まれた登山道をコースタイムの2倍かけて、3時間かけて登り切る。

そして、いま勇児五才・康児三才。今年は太清水から尾瀬沼へいけたらいいなあと思っています。

また、近くの山・日和田山に年2〜3回登っています。低い山ですが、岩もあり、子どもたちもそれを登るのが大好きです。

主人は登山歴はありませんが写真が趣味です。富士山や尾瀬の写真を独身時代撮っていましたので、山は興味があります。わが家の目標は、家族で富士山に登ること。

だんだん体力が衰えてきた私、ダイエットと体力向上が今の私の課題です。仕事も忙しいですが、毎年家族で山に登ることが生きがいの私です。

# 山との出会い

高橋 憲常（81年卒）

正直いって自分がここまで山にのめり込むとは思っていなかった。振り返れば、山岳部に入部して山を始めて早、18年。途中ブランクがあったものの登り続けて来た。今では生活の一部に組み込まれてしまったほどだ。

山岳部に入りたての頃は決して優等生ではなかった。日曜もバイトをやっていたこともあり、気が向いたら山へ行く程度でトレーニングも積極的ではなかった。当然、初めての夏合宿（北ア・穂高～太郎平の縦走）ではバテバテのていたらくだった。しかし、その年の11月に冬山の偵察で南ア・聖岳に参加して俄かに目覚めてしまった。そう、自分にとっての“山との出会い”だったのだ。畑薙ダムからの長い林道歩き、そして雨から雪に変わった登山道。はい松をピッケルの代わりに深いラッセル、たどり着いた頂上で見た赤石岳。すべてが新鮮な体験だった。

それ以後、山は生活の一部になり体の一部になった。山の計画を考えるとときいつも胸躍らせていた。良き先輩、仲間に巡りあえて4年間を楽しく過ごせた。今でもこうして連絡を取り合ったり、酒が飲めるのは山のおかげだと思っている。忘れもしない、1979年の暮れから正月にかけての冬合宿。ルートは北ア・燕～大天井～槍の縦走。強風の中の猛烈なラッセル、そしてアイゼンが刺さらないほどの蒼氷…。今だにあのときのレベルを越える山行はできていない。

卒部後は3つの山岳会を渡り歩いた。冬の登攀、沢登り、アイスクライミングと一通りのことを経験してきた。しかし、どんなに厳しい山行をしようが自分にとっての山の原点はあのときの“聖岳”であり、かけがえのない山岳部の仲間たちだと思っている。

※追伸 先日の藤内での岩登り、楽しかった！現役の皆さん、ありがとう。

## 白山のお花畑へ行ってきました。

1995年7月29～30日と、遊び友達4人と白山へ行ってきた。

29日は、仕事を終え、夕方に飛騨高山を出発して、白川村の平瀬経由で白水湖登山口に午後7時30分到着。さっそく、焼き肉とビールで前祝い。車の中で仮眠。

30日は、午前4時00分起床。みそスープに梅おかゆで腹ごしらえして、出発5時。大倉山の非難小屋は、立派なもので、ここまで2時間30分のまずまずのペース。途中、下山してくる人たちに会う。「これから登られるんだか。遅いね。白山は、夜中に登って、ご来光をながめるところなんですよ」。(よけいなお世話と思いながら)「それで、ご来光はどうでしたか?」「今日は、ガスってあいにくみることはできませんでした……」(ザマーミロ)。ここから先は、大倉尾根づたいにあるき、展望も良好で、雪渓あり、お花畑あり(ハクサンフウロ・ニッコウキスゲ・コバイケイソウ・黒ユリ・小岩カガミ・アオノツガザクラ・ハクサンコザクラ・チングルマ・コケモモなどなど)、白山の峰嶺も眺めることができ、疲れもふっとびます。室堂までさらに2時間30分。さらに白山最高峰、2,702mまで、30分。

室堂では、夏山シーズンで、人、人、人・・・で一杯。天気は快晴、下界では35度以上の酷暑が続くなか、18度の快適気温。フライパンを持参して、さっそくホルモンとB E E Rと白玉うどんで昼食。

下山は、3時間30分。往復14kmは、年に比例した体力では少々長い日程だけど、久々の山行で心地よい汗をかくことができた。白水湖では、露天風呂に入って、登山の疲れをいやすことができた。

月の一回のペースで仲間と近くの山に登っている。時々、愛犬サリーにもお供してもらうこともある。現在のストレス社会においては、登山(ハイキング)のはたす役割は、とても大きいものとする。

1995. 8. 1 Y. KAWADA(1983卒難)

## 「我が家の山行記録く」

ゼンコウ&ヤマコ

大学を卒業して10年がすぎた。「八ヶ岳」の歌を口ずさみながら一緒に登った嫁さんと一緒になって8年、子供も3人生まれた。

♪あの山にも似て、ボクは父親♪という想いもあり、八ヶ岳に行こうと思ったが、何故か日本の最高峰、富士山に去年登った。

苦節9年、やっと山らしい山に登れる！と、6才、4才の子とトレーニングを開始。1才の子を背負子に背負い夜のドバリを走りこみ、ついにその日がやってきました。（ある時は突然の夕立で帰れなくなり嫁さんに迎えにきてもらったりもした。）

2日間は本栖湖キャンプ場でオートキャンプを楽しみ、3日目の朝テントを置いて新5合目まで愛車でレッツゴー、さーいよいよ登山だ！！

8時すぎから、嫁さんは赤いザックに子供のレインウェアとレーション、ポリタンクや地図をつめこみ、ボクはチビすけを背負子にかつぎ、二人の子を両手に5人の山行は始まった。

天気は快晴、気温はよくわからんが爽快だった。とにかく行ける所まで行こうと嬉々として挑んでいった。さー一次は6合目だ。

ところが…。富士山に登られた方はご存じかも知れませんが富士山は雪渓を真直ぐ登るようなもの。しかも、小屋はすぐ上に見えるくせにいつまで経ってもつかないのです。しかも、5合目の次は新5合目、その次は6号目、新6合目……。これはサギ以外の何者でもないぞ！！

新7合目まで登った子供たちにボクは拍手をおくりたい。よくヤッタ。オレたちの頂上はここなんだぞ！！と…。

それ以降、子供たちは山に登りたいとは言わなくなりました。それまでは鈴鹿のセブンマウンテンくらいは登っていたのですが。

山岳部のウワサは、病院にくる二部の実習生からよく聞いています。オープンハイクは今日も続けているそうですネ。また、精神障害者の作業所に後輩が職員として入り、ボクたちの仲間になったとか…。

ボクの希望はひとつ、ファミリー登山をやる人はいませんか。機会があればご一緒にしましょう！



あれからもう何年になるのだろうか。

山岳部にありながら私はあんまり山には行かなかった方だと思う。でも山岳部員だった事はとってもよかったと思っている。

私が大学に入った年はちょうど大学が名古屋の「いりなか」から知多半島の「美浜」へ移転した年だった。つまり美浜一期生になるわけである。名古屋から一時間、仕事をしながらの大学生活ではなかなか時間もつukれないだろうになぜか、私が入学した年の同じ学年の山岳部員は最高時で10名もいた。いれかわり立ちかわり入ったりやめたりというケースもあった。「山に行く」とひとことで言ってもいろんな山やロッククライミングからアウトドアのキャンプの様なものまで趣向の巾といえ、ピンからきりまでであるといえる。Ⅰ部山岳部と違いⅠ部はアウトドア同好会なるものもあったりしたけれどⅡ部ではすべてがⅡ部山岳部に集っていた。私の学年はだからわりと趣向の巾もひろく部会でも何かといえ先輩を困らせてしまう事が多かった。いろんな思いや趣向を求めた時期であり状況であり世代であったのだろう。そんな中でも特に私などはなんじゃく路線と言われる最たるものの様であった。

しかしふりかえてみればもっと自分の趣向とする事をやればよかったのだろう。外で何かをやる。自然に触れて何かを感じ何かを得て受けとめて自らの生き方に生かして行くと言ってしまうばかりこういいけれどもそのような事をもっと基準にして、自分の求める何かをもっといっしょけんめいやればよかったのだろう。しかし私の場合は多くは部会でみんなをこまらせていた、ただそれだけの存在でしかなかったのではないかと思われる。

1年の時、当時4年生だった先輩にさそわれて南アルプスを南側から縦走する夏合宿に参加した。けれども、この合宿が今ふりかえて考えてみると私にとって一番印象的で心に残っている山行であった。また、2年の時、白馬岳から朝日岳に向かって縦走した夏合宿があったがこれもまた印象深い忘れがたい山行であった。その他にも先輩に連れて

行ってもらった山行や自ら企画した山行もあるけれども、その中で先輩が伝えようとしたものは数しれず多くあったのではないと思われる。

1年の時の合宿など先輩といっしょに行ったいろいろな山行に参加して感じた事から考えてみれば、先輩がいっしょうけんめい求めようとしたもの後輩に伝えようとしたものたとえば山へのより困難な所でも越えて行こうとする挑戦や、それに対するチームワークや思いやり、アルプスにアタックして行こうとする思いやロマンそれに対する準備や気構え、とでも表現できる様なもの、それら先輩方が築きあげてきた事、伝統など大切なものをとかく私などもよくわかりもせずこぼんでしまっていたのかもしれない。

それらは実はとっても大切な事でありもっと柔軟になって山に純粹に登ってふれてみる必要があるであつたし、もっと素直に見つめなおして受けとめてみなければならなかった、いけなかった事柄なのではなかっただろうか。そうして私の山に向かって思う気持ちや育てはぐくんで行くべきであつたと今ふりかえって思うのである。

まず山にふれてみなければわからないという事はいくらでもあるものなんだ、という事なのだろう。

今思い返して当時を思えばいくらでももっともっとと言ってしまうそうである。

Ⅱ部山岳部に入ってしまったと今でも思っていることは、多くの先輩方や、同期の者、そして後輩の多くの方々と知り合う事ができた事であろう。そしていろんな思いを心をわって話をし、語りめぐり合えた事だろうと思っている。それはこれからもまた続くであろう。

そして山に登った事、いっしょに登って同じ空気を胸いっぱいすって山頂で見た数多くの景色は今でもこれからもきっと忘れないだろう。

それが一番良かった事だと私は思う。

富 永 進

## 7年目の徒然帳

日本福祉大学二部山岳部を5年かけて卒業して早7年。なぜか毎年のように知多半島へ家族で温泉旅行しています。

よほど大学時代が忘れられないんでしょうね。

《あの頃》

毎日毎日考えていることはと言えば二部山岳部のことばかり。何であんなに一生懸命になっていたのかなあ。

いやいや、やっぱり二部山岳部のことが大好きだったからだろうなあ。

山よりも二部山岳部のほうが好きだったような気がする。かんじんの山はあとからついてきたような気もする。

山の右も左もよくわからなかったあの頃、槍といわれても何のことかよくわからなかったけど、そんなことよりも何よりも二部山岳部の山好きの先輩たちが魅力的だった。

そんな先輩たちのいるBOXに行くのが楽しくてしょうがなかった。そんな先輩たちのようになりたいと思っていた。

はじめの頃、毎週のように山へ行くのが苦痛だった。しかし先輩から山にも行かないのか、と言われるのがいやだった。だから少々自分に無理をして山に行っていた。

ところが毎週山へ行くようになると今度はそれが当たり前のようになってしまった。そんなふうにして山の経験が自分にとって自信となっていったと思う。

そうすると今度は山へ行くのがだんだんと楽しくなってきた。

何となく『山』に憧れて二部山岳部に入ったら人の魅力に引きつけられた。魅力的な仲間と山へ行くうちにやっぱり『山』は、いいなあ実感した。

二部山岳部を卒業して7年。

足は山から遠ざかっているけれど、『山』への思いと『二部山岳部』への思いは今も変わっていないように思う。

子供がもう少し大きくなったら夏休みには家族で徳沢あたりにテント張って子供に、昔お父ちゃんとママはなあ、ここが好きでこんなふうにしてテント張って泊まったんだぞ。なんて話してやろうかと親ばかなことを考えている今日この頃であります。

現役の二部山岳部員が、がんばってやっていること知りとても嬉しく思います。これからも、いちOBとして応援していますので『山』を楽しんでください。

ところで夏合宿のはがきは、まだ届いていないぞ。今頃山に入ってるやろに。

岡田 忠

前略 山岳部の皆様 ますますご活躍のことと思います。

私は大阪に来て13年、大学を卒業して早10数年になります。 学生時代の、特に山に行っていた頃のごことが昨日のごことのように次々と思い出すのですが、ずいぶんとたったものです。

大阪では『山と友の会』という山登りの会に入っています。子どもが小さい頃は、障害者登山に、家族で参加、夜叉神峠や、中央アルプス駒ヶ岳へ行きました。視力障害の方といしょに登ったときは高さによる空気のちがいを感しながらのゆっくり登山を楽しみました。しかし、このごろは、会報をみているばかりでなかなか山には行けません。

二男の亮(小四年)が、今年の1月より長野県の小谷村に山村留学でいっています。白馬が望める雪ふかいところです。四季がとてもはっきりしていて雄大な自然がつつんでくれるようないいところです。子どもは留学センターで生活しながら村の学校へ通っています。それで毎月のように長野へはでかけます。子どもは近くの山に登ったり 基地づくり 魚釣り アルペンスキー ノルディックスキー 等々のびのびと自然のなかでの遊びを楽しんでいます。いまは山の奥の池で、サンショウウオの卵をとってきてそだてることに夢中のようにです。私はあまり時間がないのですが たまに行く小谷村で地元の人の案内でたけのこ狩り 山菜とり 塩の道祭り 秋祭り スキー 温泉 等々楽しんでいます。6月には水芭蕉の花が見たくて樽池へ上がってきました。ゆっくり登山をすることがなかなかできないのですが子どもと楽しんでいます。学生時代のような山行きはとてもできませんが、いましばらく子どもと家族で山や小谷村の自然を楽しもうと思っています。子どもと一緒に・・・という楽しみもこの先何年でしょう? そろそろ私なりの楽しみかたもみつけようと思っています。 近況報告になってしまいましたが、山岳部の皆様のご活躍に期待していますまた、クラブのこともお知らせください。OBとしてできることがあれば微力ですが協力したいと思っています。記念誌ができるのを楽しみにまっています



大阪府茨木市上穂積3-3-28

山本 美智枝(旧姓 田辺・なべちゃん)

1995.8.31

## 25周年記念を祝って 徒然なるままに

早いもので、卒業してから4年が経とうとしています。

入部したのが、18歳の時（1987年）、生意気盛りだった私を先輩方は、快くご指導して下さいました。

そのお陰で、5年間（1年休部）続けられることが出来ました。良い先輩、後輩に囲まれて、幸せだったと思います。

バブルが弾ける前に、運よく神奈川県福祉職として採用され、現在、秦野市にある湘南老人ホームというところで勤務し、老人の介護に日夜励んでおります。今後、知的障害者児施設、身体障害者施設等への転勤があり、福祉全般を学ぶことが出来て、大変よかったと思います。

私生活のほうでは、平成5年に北アルプス雲の平でのアルバイトで知り合っていた人と結婚し、現在は、一児の父親です。また 来年2月には、二人目が生まれる予定です。

登山活動のほうも、『母子家庭だ！』と妻に言われながらも、小さな山岳会で、一か月に一度位ずつ山行しています。今年は、穂高の縦走をしました。

他には、昨年からカナディアンカヌーを初め、暇があると、近くの川や湖に行って、漕いでいます。

近況報告ばかりになりましたが、Ⅱ部山岳部も25周年を迎え、更なる発展を祈っています。

平成4年卒 ぶち2 大淵克己

連絡先 ☎254

神奈川県平塚市袖ヶ浜20-39 227号

☎0463-22-9426



こ、こにちは

<sup>カ</sup> <sup>イ</sup> <sup>タ</sup> <sup>コ</sup>  
亀井 孝子と申します。

実家はアイチゲンなでうべ 今ほ 埼玉県の 大宮市  
にあほ 精神障害者、社会復帰施設...

『やどかりの里』で働いています。

埼玉は住みやす、所どころ 海べなうべさめしい。

私は 1990ねんに 大学に入学し、91ねんに 山岳部に  
入部した。当時 22才だった。そとそと運動がうけたし  
け、うめなには 迷惑かけたふか。ごめんヨ。 ぞし

あいつで たいい 大学生生活を迷わせた。  
山岳部に 入て うめなに 会えと ねいつ 幸せ看でと 思う。  
うめなに 時間バ 流れても うめなとは 同じ 笑顔で  
会えと 信じてゐる。  
これから も どうぞ よういふ

働き始めて 1年半... あつと 間だった。  
最初の 1年は 立って ばか (今もかしら...) で 立して  
途裕べ なて 山へも 行けやせんで 下べ 二ねから  
ボクボクと 近うの 山に 登る けめな 思ひて ます。  
職場には け、う 山 好まうたべ 下り けめな。

みなさん元気で頑張っているでしょうか。お元気ですか？頑張っているでしょうか。

そろそろ夏合宿の時期になってきましたが、無理して山に登ってください。もし雨が降ったりしたら寒いけど、たいへんだけど、昨年同様雨が降ることはまずないだろうから、熱い夏を体感してください。

さて、私は、仕事を頑張っていますが、盆休み以外は、ずっと仕事です。とても山に登るひまもないし、装備（テントなど）ありません。山岳部から借りるのもいやらしいし、お金で買うとしたら、けっこう金を使いそうであまりだ。どこか山岳会に入会してみたいけど、休みがあまりないから、きっとユウレイ会員になりそうだ。山岳会に入会しているOB、OGの方々に、山岳会の活動状況など、教えてもらいたいものです。

私の仕事は雨が降ったら休みになるので山に登るわけにもいかず、梅雨どきは、ひまでひまでまいりました。最近バッシングを覚えたので、雨があがるとバッシングに行く日々が続きます。みなさんも山になんか登らないでバッシングをしよう。あまりおもしろくないけど。

## 『無題』

北海道に一人遠く離れていると美浜のありふれた風景がとてなつかしく思われます。大学在学中は冬の北海道がとても恋しかったのに、です。月並みな感想ですが、人は、住みなれた土地をはなれてからその土地を見なおすものだと思っています。はなれてしまえば全てが良い思い出に変わっていく。つらい時の事や、悲しい時の事も、大切なものになっていく。また、そうしようと心が働く。そうでなければ人は何で前向きに歩んでいけるのか。

山に登るということは、非日常的な行動で、自分はその中に自分自身を見い出そうともしていました。ハシカミたいなもので若い時には通る道だと思います。僕もその一人でした。うまく言い表せないけれど僕自身は、見失いつつ、見い出しのくりかえし。非日常的の行動については一人一人思うところがあるはずだし、今現在、その非日常的について思いめぐらしている人もあるだろうが、僕の思うところを一つ。非日常は入り口ではあるけれど答えではない、というところか。不熟ながらそう思います。考えは同じになる必要はないのだから一人一人見い出してほしい。

ものがわかっている人が見れば当たり前の事しか書いてないので少し恥ずかしいのですが、そんなことを思わせるのが山岳部での思い出です。卒業して数カ月しか過ぎていませんが山はながめてばかりです。北海道の広くなだらかな山々を見ては、北岳の頂きに心ははせ、雲の流れにアルプスの冷たい岩肌を感じます。昼休みに草地で横になるとそんなことが頭に浮かび一時の充実感を得て、今、北海道に居ることに静かな満足を感じず。そして、何もかも忘れてしまうぐらい身体を動かす。力が抜けることもあるけれど、日常にしては、けっこういい内容だ。二カ月ぶりのパリダカも言うことを聞いてくれるし、普通だけれど楽しい毎日かな。まとまりのないまま終わっていくのも徒然帳のようでまたいいのかもしれないな。

タニマサヒロ

# 山に物想ふ



私が二部山岳部に入部したのは三年の春。それまで山岳部があることすら正直知らなかった。たまたまバイト先で一緒だった亀井さん、深津氏と出会って、少しずつ山岳部に興味を持って、新歓期のクラブ、サークル紹介などに行って、入部を決めてしまった。昔から割と運動とか体育の分野は苦手で避けていた所があったから、自分でも意外だった。オープン山行で初めて鈴鹿へ行って、藤原岳に登った。あいにくピークはガスがたちこめて天気が下り坂だったため踏めずに終わったけれど、ハイな気分だった為か楽に登れた。これで気を良くして次に登った霊仙は山靴をはいて、ヘビーに疲れて、まざまざと（山岳部ペースについていけず）実力の違いを知らされた。何度か山行を重ねて、初めてアルプスに登った時の事は忘れない。6月下旬の白馬岳、個人山行だったけれど、メンバーはいつもの山仲間。ピークハントだったけれど、私にとっては初の泊り山行に、初めての大型ザックをかついでの山行、この時もあいにくの雨、雪がまだ残るテン場、翌日も天気はグズついて小雨の中雪渓に登った。登るに従って天気は回復して、山荘の辺りでは、すっかり晴天、日焼け止めを塗ったくらい。ピークは風があって、下に広がる雲を見て、その移り変わる景色に、その大きさに感動した。登る度いつも「何故こんな辛い思いをして山に登らなくちゃいけないんだ」と思うけれど、ピークを踏んだ瞬間、その辛さは逆に喜びに変わる。山行ごとにいろんな思い出がある。私は一人で登ったことはないけれど、今後もずっと、山へは仲間と登りたい。山は下界と違って、そこには文明の力はない。自分と自然が対峙する所。何もないから逆に何にもしばられない。時間も、場所も、人とのつきあいも、日々の生活と違って誰もが一線上にあって、とても素朴で素直で、こだわりも見栄もなくつき合える。

卒業して山から遠のいてしまったけれど、また皆と共にピークを踏みたい。コッヘルを囲んで手に手に武器を持って、ランタンの灯の下で、狭く暑い8テンの中で、焼肉食べたり、雑炊食べたり、ボーッとお茶すすったりしたいのだ。一度泊り山行をすれば初対面の人とでもすぐ打ち解けることができるのは、やっぱり苦楽を寝起きを共にするからなのだろうか……。山での食事は貧しくても美味なのは、それしかないからなのか……。山に登る最中考え事ばかりするのは苦しいからか……。何もないから自分と向き合えるのか……。山に登る度私はとめどなく物思い、物想ふのであった。

95. 7. 22

## 二部山岳部で思ったこと

大学を卒業してまだ半年…。二部山岳部に対しては、まだ自分自身が現役部員のような気がする。今日にだって、「ニンゲンぽ」とボックスに行き、「今度の日曜日の山行行だけぞー」と言ってしまう。まだまだ二部山岳部にいたかったな…。でも誰もが期限つきだものね、だからこそ、その月日が大切なものに感じられるのかな…。

山登りって、最初は頂上で良い眺めと達成感を感じるこれが楽しみなのかなと思ってた。でもそれだけではなかった。体から汗をふきだし、「水が一番おいしいわー」なんて言っただけで水をむさぼり飲んだり、自分の必要な荷物は自分で背負ったり雨をカッパに受けつつ、「雨の日は寒くてイヤだね」と思ったり…何でも体で感じることでできる…。山登りは、時に命にもかわることで、ごまかしが、さかすか何でも言いあえる人間関係が必要になってくる。(難しいけど…)そして、自分で自分を支える体力…人として、あたり前のことをあらためて感じさせてくれる。「バテずに歩き通せるか」「滑り落ちたら死んじゃう」そんな不安…。こういった全てのことをみんなと共有できるそれが、良かったな—と思う。楽しい二部山岳部のメンバーと…ね。

私は、今年の春から知的障害者施設で働いています。仕事でも、やっぱり頂上と同じような目標という理想を決め、それに向かって、周りの人たちと行動すること。この人たちといっしょで良かった…とその過程を大切に感じられるようにしたいです。

…最後に二部山岳部のあの汚いボックスにいつまでも人が絶えませんように…

95.0 卒業 水戸 和江

## 「このごろ思うこと」

鈴木 恵

卒業して半年。

Ⅱ部山岳部は、私にいろいろなことを教えてくれた。

山に登るという1つの目標のもとに、お互いが集い、話し合い、準備し、行動する。このことが、人と人とが支え合って生きてゆくということとが、自分を知ることだったということに、今、ようやく気づきつつある。そのように思うと、もっと、大学時代に登っておけば、と思う。

しかし、もう大学時代には戻れない。ならば、せいぜい、現役部員に負けないう今を生きるだけだ。

部員同志の絆を深めつつ、個人を認めるところがⅡ部山岳部のいいところだと思う。現役のみなさんの活動には、励まされます。いつかどこかの稜線でお会いしたいですなあ。

山を思ふ YAMA,

193S2447 山本武弘

2年の時に以前から興味のあった山岳部に入部した。

もし、友人である黒田君がいなかったら、僕自身そうすることはなかったと思う。

若い頃に山に行っていたという母親の影響もあり、高校時代も入部を考えたが、あまりの厳しさに断念した。

今思うと、このサークルに入ったことは非常によかった事だと思う。学生時代にしか味わうことのできない山へのチャレンジを自分なりにしていきたい。

このⅡ部山岳部も25年以上が過った。私の生まれる以前より成り立つこのサークルも盛衰の時期をくり返してきたことと思う。新しい世代の我々もこのサークルの火を消さないように努力していきたい。

1995年12月吉日



## —山岳部の活動を通して—

「大学生活は山で終わった。」

ちょっと誇らしげに思う。

遅ればせながら大学生となった私は、大学4年間は自分のやりたい事、今しか出来ない事を思い残すことなくやろうと決めた。

そして山岳部に入った。

ゼミも大切にしてきたが、何よりも山行を優先させてきた。

その介あって、山行の写真はアルバム3冊になる。アルプスから出した絵ハガキも数知れず。たくさんの思い出が出来た。

92年夏。初めて登ったアルプス。3000mを登りながら、健康な体に生んでくれた両親に感謝した。そして、この美しいアルプスの自然を私の子ども達にも残してあげたいと思った。

93年夏。薬師岳の遭難碑。親の気持ちを想って涙した。

そして今年の夏。最後の夏。山に対する自分の弱さ、甘さを痛感した。

山行を通して、自分という者がよく解った。

山では常に危険が隣り合う。

衣食住を共にするだけでなく、危険が伴う活動であるが由に、メンバー間の信頼関係がなければパーティーは組めない。だからこそこの4年間山を共にしてきたメンバーとのつながり、彼ら1人1人が、私にとっては最高の宝である。

この先何十年たっても、彼らのことはとても大切に思っているし、又大切にしていきたい。今後も山は続けていくであろう。

しかし、この次登る時は一緒にないかもしれない。けれども、たとえ一緒に登っていなくても、「あの時、こんな事があったなあ」と、ふと彼らを思う時があるだろう。

そんな、とても大切に思える時がもてたこと、大切に思える人と出逢えたこと、つながりがもてたこと。全てがこれからの私を豊かにしてくれることだろう。

この4年間の山岳部の活動を通して、私がつくってきたものだ。

92S0518・4年

大西君枝

1992年4月、この日本福祉大学に入学し、何を思ったのかⅡ部山岳部に入部した、迷いもせず。入部のきっかけは当時4年生だった○本先輩の「山でみる星はキレイだよ」この一言だった。

それから3ヶ月、ガムシャラに山に登った。鈴鹿7マウンテンもこの3ヶ月で登りきった。自分でも信じられない体力&精神力だったと思う今日この頃である。

その後、夏合宿で登った南アルプスの北岳、あそこは最高だった。さすが日本No. 2の標高をほこるだけはある。あそこから見た富士山はきっと忘れないであろう。

その後の山に登り続けたが、その年の冬、腰痛とヒザの故障により、秋から冬にかけては断念せざるをえなかった。

この故障は大きかった。その後、2年で8回、3年で4回と私の登山回数を減らす原因となった。

2年次はそれでも頑張って山に登ったと思う。しかし、「歩けなくなるほどの腰痛」になるであろうという恐怖には勝てなかった。歩けなくなるどころか椅子にも座ってられない、という痛みは恐らく忘れられないであろう。これが、私を山から遠ざけた最も大きい原因である。

それに伴い山に対する思いが薄れたこと、他の部員との山に対する思いの違いなど、あげればきりはない。

しかし、「百聞は一見にしかず」といった言葉のとおり、数少ない山での景色はきっとよい思い出になるであろう。特に2年生の時、準合宿でいった鳳凰三山での星空は行ってみなければ分からない、言葉にできない絶景であった。

私も4年になり、就職も地元群馬県にある老人保健施設に決定し、再び群馬県に帰ることになった。これからは、お年寄りと一緒に山のふもとで生活する日々が始まる。

恐らく、これから山に登ることはまずないであろう。山岳会に所属することもないだろうし、個人的に登ることもないであろう。

ただ、この日本福祉大学Ⅱ部山岳部での思い出は一生の思い出になるであろう。

## 2部山岳部に入って思う事

3年 93S2058 堀川尚美

私が山岳部に入部したのは、2年生の後期に入って10月ぐらいだ。今でもドキドキしながら、BOX3の扉を開けた時の事を思い出す。それが、今では平気でBOXに出入りできるようになり、大学生活の中でサークルが占める時間も長くなったように思う。

そして、同じ山が好きな人達と一緒に集まって、ワイワイしゃべったり、遊びに行ったり山に行ける楽しさを感じ、自分の居場所を見つけられたようで、とてもうれしい…。

これまで冬合宿と夏合宿を一回ずつ経験したが、やはりいろんな意味で、いい思い出になっている。

しかし、ただ楽しいだけの山岳部であったような2年の頃に比べ、3年に入ると、いきなり部の運営など中心になっていかなければならない立場の学年になり、とても荷が重く、どうしたらいいのか分からないことが多かった。それは今でもそうで、基礎的なことも知らないままやっていっている。部長の田口くんには、頼ってばかりでというより、人任せにしている。

それでも、一年生は部室に足を運び、一緒に山に行ったり、各人で努力されてる姿をみると、こちらががんばらなくてはと思うし、励みにもなる。そしてなによりも仲間が増えたことがうれしい！

そして4年生の先輩方が、暖かく見守っていてくれ、忙しい時期だと思うのに、よく部室に顔をだしてくれるので、こちらも心強い。

でもみんなで、一つのことに向かっていくにしても、まとまらなかったり、提出物もそろわなかったり、部員が集まらなかったりとバラバラで、すき間風の吹くような感じで、むなしく思うこともある。

しかし、良くも悪くも私たち自身が作り上げることなのであって、過去の先輩方の真似はできないし、先輩方の築き上げてきた山岳部のしっかりとした組織運営など、はずかしいけど今は、先輩方の時のように、機能されていないと思う。甘んじてはいけないけど、できるだけ事をやっていき、少しでも後輩へ、反面教師の部分が多いと思うが、精一杯やろうとする姿勢は伝えられるように努力して、部員全員で作り上げていきたいと思う。

仲間と一緒に山に登ることが好きで、山岳部を選んだが、今こうして大学生活の中で、私がいきいきと活動に参加できる貴重なもので、たくさんの仲間に出会え、思いきって、これまでのキャンプカウンセラーのサークルを辞めて、こちらにきたことも、これでよかったと思う。

田口剛

私はよく、空を見上げます。

講義棟から学館へ歩くとき、

美浜の海岸で寝転がるとき、

山のピークで寝転がるとき。

青い空を見ていると、

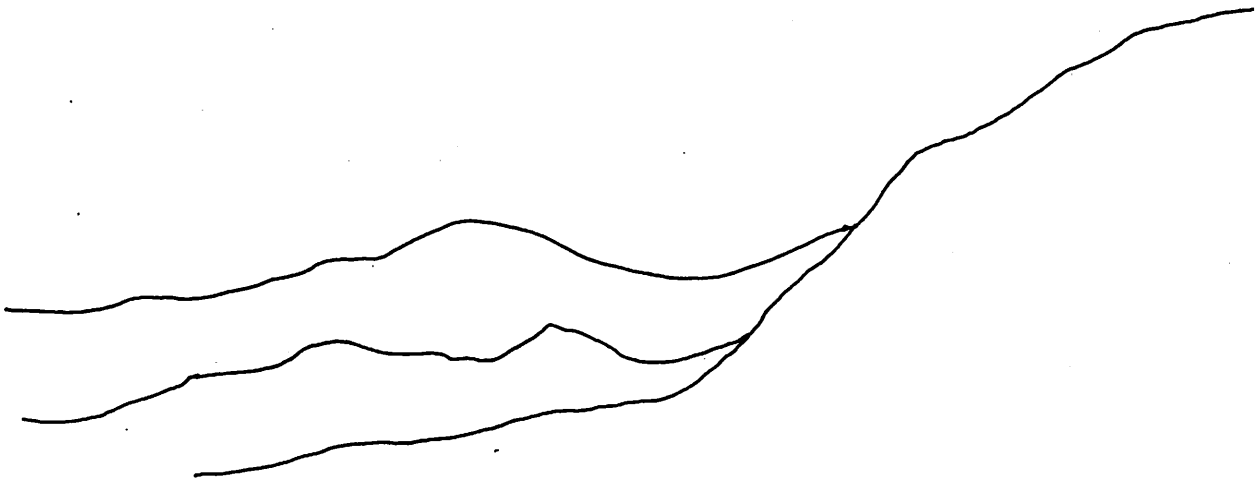
近づき難い存在である、

と同時に、

近づいてみたい、と思う。

私が山に登るのは、

少しでも、空に、近づくため。



# 登山

きれいな景色を見るため 私は 山に登る。  
俗世間から離れた一時を 過ごすため 山に登る。

高い所から下界を見ると 自然の広大さに 人間の無力さ、儚さ等を感じる。  
その一方 その人間が 自然を破壊しつつあることに  
申し訳ないような、悲しい気持ちにもなる。

山小屋があることに 何か遭った時のことを考えると とても心強い。  
そして そこに同じ人間がいることを思うだけで 安心する。

しかし その山小屋がホテル化してしまったら  
情けなく また、そうしてしまった者が同じ登山者だということに 腹が立つ。  
人間はなぜ 便利さを追求するのだろう。  
自然界に来たのなら 自然界の法則に なるべく従おうとするのが  
本来の登山者だったのではないか。

俗世間から離れて 美しい自然が 恐いと感じるくらい 他に人影もなく  
自然の音しか聞こえない時 私は いろいろなことを考える。  
普段はあまり考えないことを。

ちっぽけな人間の中の 私が この世の中で どう生きていったらいいのか  
大自然の中にいると 小さな悩みはばかばかしくなり  
自分を大きく見せたい という衝動にかられる。

山の中で生まれた人間は 山にいるとき 自然になれる。

小澤 由紀

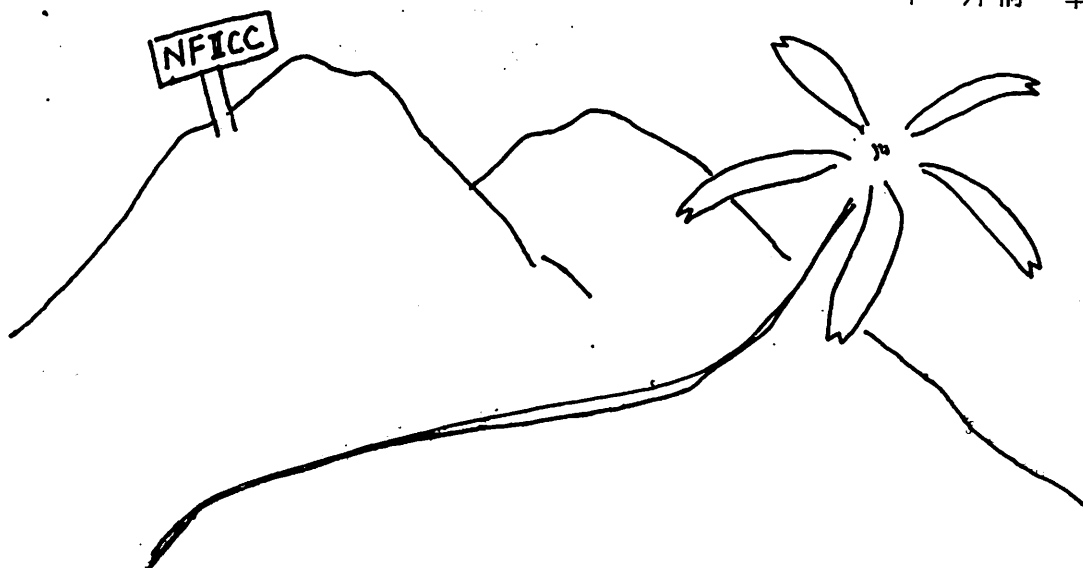
私は今年の4月に大学に入学し「何かを見つけよう」と思い山岳部に入った。入部してから半年たち、私なりの山に対する思いに戸惑いを感じながらも行けるときには出来るだけ参加している。

初め、何も考えずに登っていた私が、いろいろ考えるようになったのは竜ヶ岳山行の時からだと思う。道に迷ったとき、その前から、私はリーダーや他の先輩達に頼りきっていた。もしその時メンバーのうち一人でも転落したり、自分一人になってしまったら私はどうしていただろうか。

一つの山に登るにしても今私は軽々しく登りすぎているのではないかな？ただ登って、それでおしまい。目標無いままで、何も見つからないまま四年間過ぎてしまうのだろうか？今はよくても後々、後輩が出来たときに私はどう引っ張っていくのだろうか？入った目的は自分中心の軽い考えで入ったけど、この頃山の重さを感じることもある。時々、山に登っているとき、本当につらくて「こんな場所で私は何をやっているのだろうか？」と思うことがある。でも、山岳部に入ったことでいい思い出もしたし、つらい思い出もした。だけど、全部山岳部に入らなければ味わえない体験だと思う。頂上に着いたとき、一つの山に登り終えたときの、達成感がいい。そして夏合宿の縦走中、山々に囲まれて、気分がよかった。自然のすごさと、人間のすごさを知った。

これから四年生まで、きっとまだまだ色々な山に登るだろう。四年生になったとき「山を選んでよかった」と思えるような山行をして行きたい。

一年 片桐 幸代





どうして山にはまったんだろう。

私はごく軽い気持ちで山岳部に入った。他にもⅡ部サークルに入っていたし、キャンプ系の学外サークルにも入っていた。こんな言い方は真剣に山に取り組んでいる、または取り組んでいた山岳部部員の方々にめっちゃくちゃ失礼だけれど、適当にやるつもりだったのだ。山に登るに意義や獲目は必要ないと思っていたし、ただ軽く「好きだから」が山に登る意味になると思っていた。「好きだから、やりたいから、登る」という考え方は今でも変化してないし間違っているとも思わない。ただ、以前は多分事故らなければこんなに深く山に登りたがっていることにも気づかなかっただろうと思うぐらいに、何も考えずにいたのだ。

私の両親は昔から私がやりたがっていることに危ないからという理由で反対しなかった。そのかわり、やりたいことをやるにしても逆にしても、自分のやっていることに対して責任を取れるようにと言ってきた。夏合宿の帰りにはずっとこのことを考えていた。事故を起こし、山岳部員をはじめとして周り中の方々に迷惑をかけまくった私が取れる責任とは一体何だろう。

「事故を起こした者はその原因・対処法を追及し、後者が同じ事故を繰り返さぬようにすべきだ」という文章を読んだ。でも、今の私にはこれすらできてないように思える。自分がやりたいという気持ちだけで動いて人に迷惑をかけて責任は取らないということは、ただのわがままじゃないだろうかと思う。考えれば考えるほどこんがらがって答えなんてわからなくなる。

それでも、山に登りたいからという気持ちだけで私は山岳部部員でいる。今はその事実を大切にしようと思う。

ながい ゆき

## 山岳部に入部して

長 嶋 初 重

私はこれまで山には全く縁がなく、あえていうなら小学3年生の頃、富士山に5合目から6合目(?)まで登り、お土産に岩石を持ち帰り配り歩いていた、そんな思い出があります。それ以外は鈴鹿に住んでいながらも、縁どころか興味さえありませんでした。しかし、知人があまりにも「山はいい、いい」と言うので、うらやましくなり、一度私もその「いい」というものを体験してみたいなぁ、と思っていた時に山岳部に会いました。

しかし、最初は山岳部に入ったということだけに満足してしまい、登るということには何となく興味はあったものの、それほど気合いが入っていませんでした。さらに「山はいい」ということは「山は楽しい」としか解釈していなかったのです。そんな軽い気持ちで春のオープン山行に参加したのだから、そのあまりのえらさで「だまされた」「甘かった」としか思えませんでした。

なのに何故“準合宿”や“新人山行”に参加したのでしょうか。どうして、今ここで懸命に無名峰を書いているのでしょうかね。よくわかりません。「山のよさ」も未だによく分かりません。

頂上から見渡す素晴らしい景色でしょうか。自分の体力と精神力に挑戦できることでしょうか。偉大な山に登りきった時の充実感でしょうか。自然との一体感でしょうか。それとも部室で山行計画をたてている、ちょっとした緊張感でしょうか。あるいは“部室”という行く場所があり、徒然帳を読んだり書いたりするあの何気ない学生生活感でしょうか。そう思うと、山はもちろん、山岳部って、魅力的なのかもしれません。

しかし、寒くて、えらくて、不便で、重くて、おまけに数ヵ月分の滞納した部費の請求がお金の無い時にきたりなんかして……。そう思うと、山はもちろん、山岳部にいることを考えてしまいます。

そんな感じで在籍をしています、少なくともいつも感じ、思うことは、自然が相手という緊張感と、仲間づくりというものを大切に考えたい、ということです。私はあまり山岳部には積極的でないので偉そうなことは言えないし、難しいことは言えませんが、皆それぞれ考え方も、やり方も違うけれど、山という共通の目的をもった一つの仲間として良いつながりをもっていきたいと思っています。

ちょっとまとめがヘンになりました。

おわり。

# 徒然帳から

—— 1973年～1995年の徒然帳からの抜粋 ——



1994年8月 北岳に行ったら鳴らしましょう。

♪あの鐘を鳴らすのはあな～た～♪

※おことわり

過去の徒然帳の中から青春の薫りのするものを勝手に選ばせて頂きました。  
当時の執筆者の方々、ご了承下さい。

# とうたいませい

## 穂高よさらば

ほ だ か よ さ ら - ば ま た く る 日 ま - で

お く ほ に - は け - る あ ね - ぐ - も

か え り み す い は 遠 ざ か る ま ぶ た に 浮 か ぶ シ ン ダ ル 川

ま ぶ た に 浮 - か ぶ シ ン ダ ル 川

1. 穂高よさらば、また来る日まで、奥穂に映ゆる、あかね歌

かえりみすいは、遠ざかる、まぶたに浮かぶ、シンダール川

2. 穂高よさらば、また来る日まで、北穂に続く尾根づたに

かえりみすいは、遠ざかる、まぶたに浮かぶ、橋ヶ谷

3. 穂高よさらば、また来る日まで、西穂に続く、雪の原

かえりみすいは、遠ざかる、まぶたに浮かぶ、田代池

4. サレカッといふ登る岩、若者達の、かけ声に

はすんで登る橋の道、あめ美わしき、橋ヶ谷

5. 夕陽に燃える白樺林、肩を寄せ合い、歩く道

いつか夕陽くいて行く、あめ美わしき大正池

6. 穂高よさらば、また来る日まで、明神出の、岩の肌

かえりみすいは、遠ざかる、まぶたに残る、大正池

7. 流水は清い、梓川、雪割草の花びらの

朝せやの中、流水行く、あめ美わしき、上高地

8. 焼岳よさらば、又来る日まで、独標はるか、岩の峰

かえりみすいは、遠ざかる、まぶたに残る、大正池

涸 沢 9 歌.

詞、林銀一

曲・小野玄人

[illegible]

1. 長い冬が終り、白いカーペット グリッド  
北尾根に、奥穂高に、緑のせう国、美しい、美しい、穂高の山が。
2. 白い花をつけて、あわい、光を、ながかけた。  
北穂から、下りて来た、美しい、乙女が、おわやかな、おわやかな、夏の日の恋。
3. 赤く、梁まる山を、一トヒユッテ、みつめてた。  
夜が更けて、星が降り、歌声が南にふる、ながかい、ながかい、涸沢の夜。

○ 作詞者、小林銀一氏は、湘泥と云ふ、支配人、2、24等

署いた人：矢吹 三郎

## ハが岳に思う

もう山にうぼり はじめてから 約6年になる。

高校時代には

こゝにふさわしい山が...

21才には 21才の うぼり方か...

そのころにおいて 自分の年に ふさわしい山か あるのだと思う。

わたしにとって ハが岳は...

赤岳鉱泉は...

よく一人で テントをはた。

仲間が 恋しくなつて

仲間と 歌いたくて

仲間と いろいろなこと 話したくなって

それでも じつと がんばりして

一人は寂しいこと よくわかっているのに

わたしは いつも 一人で ハが岳にまわろう

6月のハが岳は

朝は道がこおっていて

横岳のころは あふない

午後から天気くずれやすく

雨からヒョウになりやすい

10月のハが岳

御来光がすばらしい

寒さに耐えながら じつと太陽が顔をたたくを

待っているのも 又、いいもの。

午後 硫黄岳からみる雲海もきれい

赤岳鉱泉が 牧場のように 神妙な感じにみえる。

11月初旬

雪はあふないけど 朝の寒いこと

テントは もちろん シラフカバーまで

バリバリに こおっている。

ホッパンの水 こおっていて とりたすのに こまってしまう。

薪屋まで おみやげにもちかえる。

門前山の頂上で 北アルプスは雪でお白。

南アルプスのノコギリ岳 すばらしく 美しくて

2時間 頂上にいた。

2、24 AM 2:24

昨日、社会保障論の毎再試験を受けました。フルルッ。

見事な、ほとんど白紙の状態で提出しました。カッタイ!

つまり、今の一年生と4月から机を列べるわけですか。

イヤ〜一年生諸君! 一教科だけですか〜ヨロシク。

12時頃に西永と吉野家に喰い、喰いッアーに行き、その後

Boxへ帰って10分休してから、帰ろうと外へ出たところ、

さむ〜と肌で感じ、今日はBoxでパークと決定しました。ナ。ナ。ナ。ナ。

ここだとストーブとコタン付き、光熱費タダなので、とても気に入って

あります。ハイ。そして寄贈してもらった本を読んでいます。中には

ほとんどアバもありましてみんなの今後の山行に役立つのか、泥山

あり、私めも寄贈して下さいました西先輩方に感謝の合掌をしておるに

いてあります。話は変わりますが一年の信サニ。12時過ぎにネコとい

うサのミがソコを尋ねて来ました。もうとくに帰、たよ。と話しま

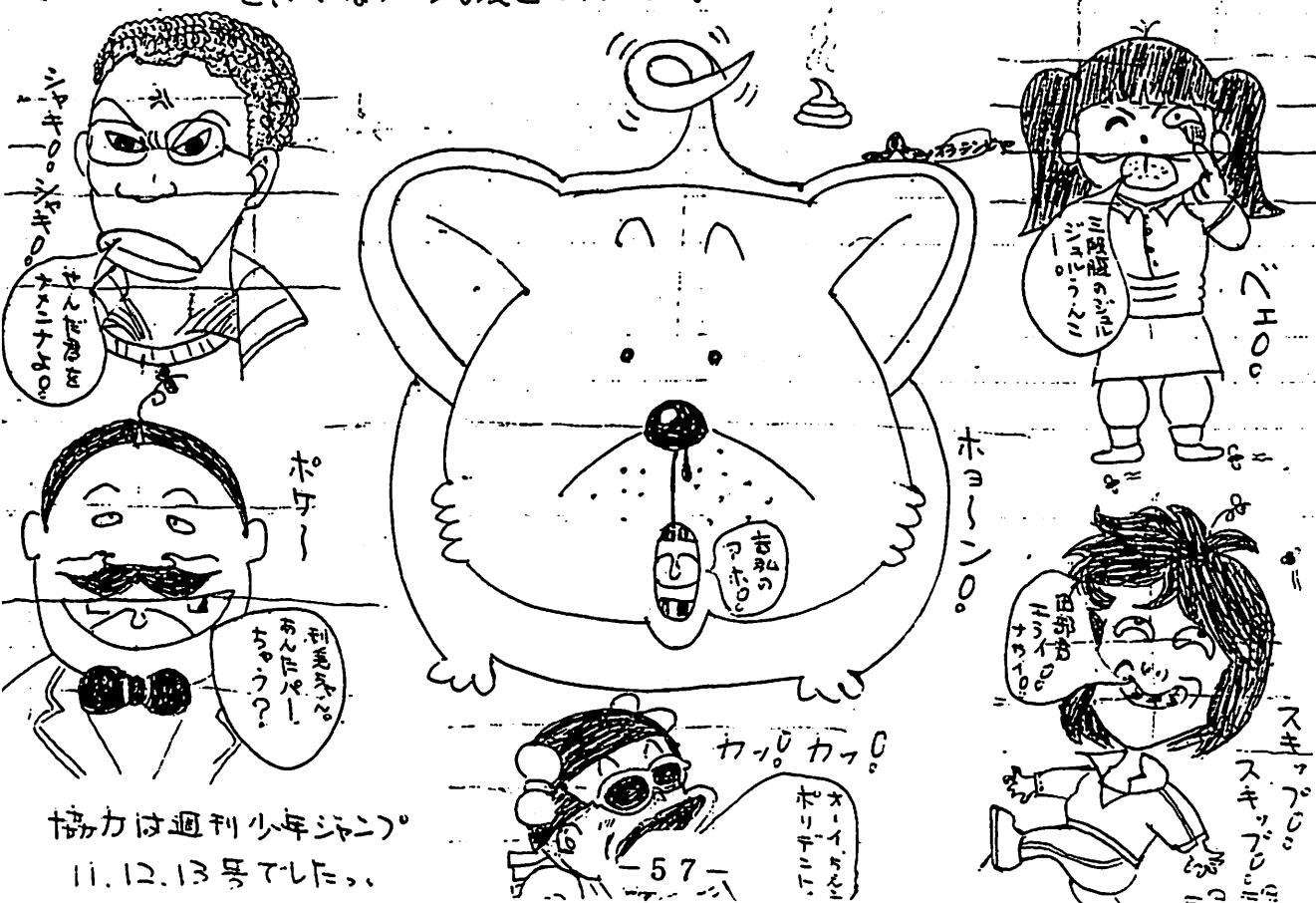
すと、多分そうだろうと思った、とぎって出て行、た。4、5日前にも12時

頃一人で本を読んでいますと尋ねて来た。あ、子、い、たい何や、とるのかえ?

そういう面こそ何やとるのかえ。と自分に問う。ホ、ホ、ホ。

自々と近況を聞いてありますと寝なくな、てきた。もうねる。クッ。クッ。

と、いいなからも漫画を描いとる。



協力は週刊少年ジャンプ。

11.12.13号でし、。



81.2.27. (金) 旅に出る  
 テントとシュラフの入ったザックをしい  
 テントには一箱の煙草と笛をい  
 旅に出る

出発の日はずけ  
 霧のにおにやさしい春の雨の日がよい  
 雨をみては若芽がしめじとぬれながら

そして富士の山におどろ  
 原始林の中にゆく  
 ゆくりとあそぶことなる

大きな古木にまた  
 一層暗い その根本に腰をおろして休む  
 そして古木の枝葉工場で作られた一箱の煙草を取り出して  
 暗い古木の下で一本の煙草を喫ふ

近代社会臭いのする その煙も  
 古木よ お前はなぜ思ふのか

原始林の中におどろく湖とさかす  
 そしてその岸辺にまたきて  
 一本の煙草を喫ふ  
 煙をすて吐き出して  
 ザックのガタからぞ静かに休む

原始林を暗やみが包みこむ頃にまた  
 湖に小舟をうりかへ

衣服を脱ぎ捨て  
 すべりな肌をやみにつつみ  
 左手に笛をもつ  
 湖の水面を暗やみの中に漂いながら  
 笛をふく

小舟の幽かなるうつろいのさざめきの中  
 中天より涼風を肌へ流しこみながら  
 静かに眠る

そしてまた笛を深い湖底に沈めよう

二十歳の原点 高野 孝子 著

1982年

9/9

群馬から帰ってまいりました!! 久しぶりであすね ちやちやです。  
尾瀬へ行って淡い思い出をつくらせてきました!! あ~~~~  
あの青い空! その中を駆けめぐる真白な雲! そして思わず目を  
みはる木々の緑! どうしても今年の夏はこの3色が絶対見た  
かった!! 夏合宿の北アルプスでは見られなかったから!  
今 季節は秋へ向かってかたじけなく始まったところ……  
俺の大好きな夏はもう終わり……  
いろんな思い出を今年もいっぱい胸に秘めて、俺の心もいつの  
間にか秋から冬へ……  
目をつむれば、あの人、この人、顔・顔・顔  
「ありがとう」そして「さようなら」また来年も夏がくるさ!!  
今日はこのへんで、さようなら…… あすね

昨年夏合宿で白馬から種池まで縦走した。白馬の頂上に着いた。  
その直下に見える白い花、右下方をみても、左下方を見ても、普  
通では見えないような花々も私には、くっきりと見えてしまうわ!!  
花・花・花!! 白い花、私もあの白い花のように……  
毎日ハッピーはげもう。 鳴海の西永

この徒々帳の 12ページを見よ。!!



マークのところを見よ。!!

山だし 大阪は内閣市で

真如死バツの女の人に会っていました — !!

1986年

6/26

じゃん、♪

「岡田さんの日記帳」に 岡田さんより 早く 手をつけて  
しまった。これは ぜひ 岡田隊長以外の 日記帳に  
たよりことを 切に 祈っております。

1年生たち、

どんどん 参加せよ。せよ...せよ

教育実習 面白かった。

教科担当の先生が、山とバイクにまどがれる少年みた  
い人で、わたしが 何時値もかけて 作った 教案を 1秒  
も見たら 「王. よいでしょう。それより...」 と ひいびりだ  
してくるのが 山の土図。

「この道には しごりハジが ある...」 とか

「この 金貨場は ぬた。こた...」 とか。

その先生、めんどいとは 嫌いだそうで、生れた 我が子  
につけた その名も 一郎・二郎・三郎。これ ほんまよ。  
「早く 息子さんが 大きくなつて 電力要員になつてくれると  
いいですね」と言う。答えることに....

「いや、横着な 親には、横着な子しか 育たんもてです」

ちゃん、ちゃん。

4年になつたら Boxが 遠くへみた。

3年のも いやな理由のひつだけと (せみ室は たいがい  
キレイ!) 4年になつたら たいがい 卒論とか 就活  
とか 気に 病んでしまう。卒論を持って 卒業したいわ。

(せみ員合同執筆のサトウ・総論)

Bon と 〇〇 が 屋瀬へ 行く 仕度 (装備分担) 中。  
いいね... 高原の 美少女 2人旅... うつくし..  
い、てら、しゃい... と 嫌みの 視線を おくる 美子

7/13 (月) <もうF!! ぶっF!! ムンムンした一日!

1987年

コンパ楽しかったなあ。みんなも楽しかった? そんなりに楽しんできたようぢやね。私は気がついてたら、大塚Bon隊長あとでふてた。そういえば、車にのってたことがあったような... そんなことはどうでもいい。こう暑い日がずっと。毎晩でものみに行きた!!。ビバゲーション。みんね。つあーくでくふ。私はいつでもいい。

今のバイトIT、こう楽しい。ほこやのおじさんか、「おまえはウーニとか「あ、そうか。そうか」しかいいん。」とあきふとった。そういえば、そうだと、返す言葉がなかった。今日は昼休みに、売店前で、おほいそうに。すわってたら、板前のおいちゃんが、「ビールをあかぬ」と言ってくれた。素直な私は、すぐ、「ウーニ」ビール350ml飲んで。私は午後、パワフルに働いてしまった。かえりがITに、ほこやのおいちゃん曰く、「おまえの横でやると、こ、ちまどあせ、てくるすごい馬力やなあ。」と。ふん、いんた、いんた、とんか、女の子に言うことが。それに今日は昼休みにPICユールという潤滑油が入って、バリバリに働いてしまったんや。ふん、ふん。

Gu.Gu. 

7/13

この日は頭ガンガン 胸はピーピー  
もう 気が持ちあふーてあふーて。  
しかし2時間も電車にのって津へ行たけど。  
近金庫のってる時かな。1つ、こう楽になつてさ  
といふ むこうについたら  
1日中 遊んじった。  
や、は、は、またまた20。  
若い若い。

まきん

7月28日

## MALKIN SPECIAL PART 7

HIROTOH MURAKAMI

最近 WSF に興味を持ったマルキン。可能な時は  
津へ行って WSF を楽しむ。こんな自分に「山へ行く気持  
ちはうせたのか？」と聞くと 4人は下を向いてしまう。  
ひょっとすると山へ行くより WSF の方が楽しいのでは。  
だから、去年だったら山へ行っていた日曜に WSF をしている  
のかもしれない。しかし 4人は そう思いたくない。

岳人でもあり、W・H・F・でも ある 木上英俊 は 立派で  
おきな OUT DOORS MAN だし そう信じている。

気のせいかもしれないが、最近 T・V を見ていると  
アウトドア関係のテレビをやっている。何が自分が  
同じようなことをやっているということどううれしい気分  
である。WSF も楽しいが やっぱり 自然とのふれあい

気分をもとめとった NFACC。ちよと苦しいが、  
ほくは、非常にしあわせな人間である。

山登りや岩登り、冬山・春山・夏山。日本で2番高の北岳  
、W・S・F、ジェットスキー、水泳、サ、ソフトボール、  
で公式戦をやったり JAZZ 系なく愛し、セブをバムとガ  
ぶけるようにと努力したりとんちいはいがまんばっている  
木上英俊にホクはすこくうらやましい気持ちは持て  
いる。もう一度生まれ変わったら？ と聞かれたら、

ホクは 木上英俊 のような人間になりたいと答える。  
そこで最近 NFACC の BON さんが JAZZ にこりてした。  
しゅしゅ、ジャズ喫茶 MALKIN の復活だ。

ジャズ ジャズ ジャズ 4人は JAZZ FAN でよかったと  
思う。もし今度、もう一度生まれ変わったら？ と聞かれたら、  
ホクは、ルイ・ア・ウストロング のような人間になりたいと答える。

1988年

1/19.木 PM 7:30.

II部山岳部は 未だ始動しとらんから、誰もBOXに現れ  
今日は試験もないせいか、学内は静か。もう正月気分もあ  
げられ、'88もいよいよこれからですね。BOXに来ても  
全然帳が、ぜんぜん進んどらんのは、ほんとにさみし  
い。いい部員は、何をしとんのだろう。やはり部屋  
二つに二つに入りながら、テスト勉強をやっているのでしょう。  
あ、あてりまえといえは、あてりまえである。

II部山岳部 にはいるのも、あと1月ほど、とある。  
あと、何回、II部山岳部員として山に登るつもりだ  
OBからの写真状によると、正月も山に入っている人が、何人  
いるようで、うれしい。最近、中高生者が、どんどん  
山に入っているようで、反面若者が、減っているようにも  
見える。藤田氏は、とうとう3-0.1.0.7.1.2.3.4.5.6.7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18.19.20.21.22.23.24.25.26.27.28.29.30.31.32.33.34.35.36.37.38.39.40.41.42.43.44.45.46.47.48.49.50.51.52.53.54.55.56.57.58.59.60.61.62.63.64.65.66.67.68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80.81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93.94.95.96.97.98.99.100.101.102.103.104.105.106.107.108.109.110.111.112.113.114.115.116.117.118.119.120.121.122.123.124.125.126.127.128.129.130.131.132.133.134.135.136.137.138.139.140.141.142.143.144.145.146.147.148.149.150.151.152.153.154.155.156.157.158.159.160.161.162.163.164.165.166.167.168.169.170.171.172.173.174.175.176.177.178.179.180.181.182.183.184.185.186.187.188.189.190.191.192.193.194.195.196.197.198.199.200.201.202.203.204.205.206.207.208.209.210.211.212.213.214.215.216.217.218.219.220.221.222.223.224.225.226.227.228.229.230.231.232.233.234.235.236.237.238.239.240.241.242.243.244.245.246.247.248.249.250.251.252.253.254.255.256.257.258.259.260.261.262.263.264.265.266.267.268.269.270.271.272.273.274.275.276.277.278.279.280.281.282.283.284.285.286.287.288.289.290.291.292.293.294.295.296.297.298.299.300.301.302.303.304.305.306.307.308.309.310.311.312.313.314.315.316.317.318.319.320.321.322.323.324.325.326.327.328.329.330.331.332.333.334.335.336.337.338.339.340.341.342.343.344.345.346.347.348.349.350.351.352.353.354.355.356.357.358.359.360.361.362.363.364.365.366.367.368.369.370.371.372.373.374.375.376.377.378.379.380.381.382.383.384.385.386.387.388.389.390.391.392.393.394.395.396.397.398.399.400.401.402.403.404.405.406.407.408.409.410.411.412.413.414.415.416.417.418.419.420.421.422.423.424.425.426.427.428.429.430.431.432.433.434.435.436.437.438.439.440.441.442.443.444.445.446.447.448.449.450.451.452.453.454.455.456.457.458.459.460.461.462.463.464.465.466.467.468.469.470.471.472.473.474.475.476.477.478.479.480.481.482.483.484.485.486.487.488.489.490.491.492.493.494.495.496.497.498.499.500.501.502.503.504.505.506.507.508.509.510.511.512.513.514.515.516.517.518.519.520.521.522.523.524.525.526.527.528.529.530.531.532.533.534.535.536.537.538.539.540.541.542.543.544.545.546.547.548.549.550.551.552.553.554.555.556.557.558.559.560.561.562.563.564.565.566.567.568.569.570.571.572.573.574.575.576.577.578.579.580.581.582.583.584.585.586.587.588.589.590.591.592.593.594.595.596.597.598.599.600.601.602.603.604.605.606.607.608.609.610.611.612.613.614.615.616.617.618.619.620.621.622.623.624.625.626.627.628.629.630.631.632.633.634.635.636.637.638.639.640.641.642.643.644.645.646.647.648.649.650.651.652.653.654.655.656.657.658.659.660.661.662.663.664.665.666.667.668.669.670.671.672.673.674.675.676.677.678.679.680.681.682.683.684.685.686.687.688.689.690.691.692.693.694.695.696.697.698.699.700.701.702.703.704.705.706.707.708.709.710.711.712.713.714.715.716.717.718.719.720.721.722.723.724.725.726.727.728.729.730.731.732.733.734.735.736.737.738.739.740.741.742.743.744.745.746.747.748.749.750.751.752.753.754.755.756.757.758.759.760.761.762.763.764.765.766.767.768.769.770.771.772.773.774.775.776.777.778.779.780.781.782.783.784.785.786.787.788.789.790.791.792.793.794.795.796.797.798.799.800.801.802.803.804.805.806.807.808.809.810.811.812.813.814.815.816.817.818.819.820.821.822.823.824.825.826.827.828.829.830.831.832.833.834.835.836.837.838.839.840.841.842.843.844.845.846.847.848.849.850.851.852.853.854.855.856.857.858.859.860.861.862.863.864.865.866.867.868.869.870.871.872.873.874.875.876.877.878.879.880.881.882.883.884.885.886.887.888.889.890.891.892.893.894.895.896.897.898.899.900.901.902.903.904.905.906.907.908.909.910.911.912.913.914.915.916.917.918.919.920.921.922.923.924.925.926.927.928.929.930.931.932.933.934.935.936.937.938.939.940.941.942.943.944.945.946.947.948.949.950.951.952.953.954.955.956.957.958.959.960.961.962.963.964.965.966.967.968.969.970.971.972.973.974.975.976.977.978.979.980.981.982.983.984.985.986.987.988.989.990.991.992.993.994.995.996.997.998.999.1000.1001.1002.1003.1004.1005.1006.1007.1008.1009.1010.1011.1012.1013.1014.1015.1016.1017.1018.1019.1020.1021.1022.1023.1024.1025.1026.1027.1028.1029.1030.1031.1032.1033.1034.1035.1036.1037.1038.1039.1040.1041.1042.1043.1044.1045.1046.1047.1048.1049.1050.1051.1052.1053.1054.1055.1056.1057.1058.1059.1060.1061.1062.1063.1064.1065.1066.1067.1068.1069.1070.1071.1072.1073.1074.1075.1076.1077.1078.1079.1080.1081.1082.1083.1084.1085.1086.1087.1088.1089.1090.1091.1092.1093.1094.1095.1096.1097.1098.1099.1100.1101.1102.1103.1104.1105.1106.1107.1108.1109.1110.1111.1112.1113.1114.1115.1116.1117.1118.1119.1120.1121.1122.1123.1124.1125.1126.1127.1128.1129.1130.1131.1132.1133.1134.1135.1136.1137.1138.1139.1140.1141.1142.1143.1144.1145.1146.1147.1148.1149.1150.1151.1152.1153.1154.1155.1156.1157.1158.1159.1160.1161.1162.1163.1164.1165.1166.1167.1168.1169.1170.1171.1172.1173.1174.1175.1176.1177.1178.1179.1180.1181.1182.1183.1184.1185.1186.1187.1188.1189.1190.1191.1192.1193.1194.1195.1196.1197.1198.1199.1200.1201.1202.1203.1204.1205.1206.1207.1208.1209.1210.1211.1212.1213.1214.1215.1216.1217.1218.1219.1220.1221.1222.1223.1224.1225.1226.1227.1228.1229.1230.1231.1232.1233.1234.1235.1236.1237.1238.1239.1240.1241.1242.1243.1244.1245.1246.1247.1248.1249.1250.1251.1252.1253.1254.1255.1256.1257.1258.1259.1260.1261.1262.1263.1264.1265.1266.1267.1268.1269.1270.1271.1272.1273.1274.1275.1276.1277.1278.1279.1280.1281.1282.1283.1284.1285.1286.1287.1288.1289.1290.1291.1292.1293.1294.1295.1296.1297.1298.1299.1300.1301.1302.1303.1304.1305.1306.1307.1308.1309.1310.1311.1312.1313.1314.1315.1316.1317.1318.1319.1320.1321.1322.1323.1324.1325.1326.1327.1328.1329.1330.1331.1332.1333.1334.1335.1336.1337.1338.1339.1340.1341.1342.1343.1344.1345.1346.1347.1348.1349.1350.1351.1352.1353.1354.1355.1356.1357.1358.1359.1360.1361.1362.1363.1364.1365.1366.1367.1368.1369.1370.1371.1372.1373.1374.1375.1376.1377.1378.1379.1380.1381.1382.1383.1384.1385.1386.1387.1388.1389.1390.1391.1392.1393.1394.1395.1396.1397.1398.1399.1400.1401.1402.1403.1404.1405.1406.1407.1408.1409.1410.1411.1412.1413.1414.1415.1416.1417.1418.1419.1420.1421.1422.1423.1424.1425.1426.1427.1428.1429.1430.1431.1432.1433.1434.1435.1436.1437.1438.1439.1440.1441.1442.1443.1444.1445.1446.1447.1448.1449.1450.1451.1452.1453.1454.1455.1456.1457.1458.1459.1460.1461.1462.1463.1464.1465.1466.1467.1468.1469.1470.1471.1472.1473.1474.1475.1476.1477.1478.1479.1480.1481.1482.1483.1484.1485.1486.1487.1488.1489.1490.1491.1492.1493.1494.1495.1496.1497.1498.1499.1500.1501.1502.1503.1504.1505.1506.1507.1508.1509.1510.1511.1512.1513.1514.1515.1516.1517.1518.1519.1520.1521.1522.1523.1524.1525.1526.1527.1528.1529.1530.1531.1532.1533.1534.1535.1536.1537.1538.1539.1540.1541.1542.1543.1544.1545.1546.1547.1548.1549.1550.1551.1552.1553.1554.1555.1556.1557.1558.1559.1560.1561.1562.1563.1564.1565.1566.1567.1568.1569.1570.1571.1572.1573.1574.1575.1576.1577.1578.1579.1580.1581.1582.1583.1584.1585.1586.1587.1588.1589.1590.1591.1592.1593.1594.1595.1596.1597.1598.1599.1600.1601.1602.1603.1604.1605.1606.1607.1608.1609.1610.1611.1612.1613.1614.1615.1616.1617.1618.1619.1620.1621.1622.1623.1624.1625.1626.1627.1628.1629.1630.1631.1632.1633.1634.1635.1636.1637.1638.1639.1640.1641.1642.1643.1644.1645.1646.1647.1648.1649.1650.1651.1652.1653.1654.1655.1656.1657.1658.1659.1660.1661.1662.1663.1664.1665.1666.1667.1668.1669.1670.1671.1672.1673.1674.1675.1676.1677.1678.1679.1680.1681.1682.1683.1684.1685.1686.1687.1688.1689.1690.1691.1692.1693.1694.1695.1696.1697.1698.1699.1700.1701.1702.1703.1704.1705.1706.1707.1708.1709.1710.1711.1712.1713.1714.1715.1716.1717.1718.1719.1720.1721.1722.1723.1724.1725.1726.1727.1728.1729.1730.1731.1732.1733.1734.1735.1736.1737.1738.1739.1740.1741.1742.1743.1744.1745.1746.1747.1748.1749.1750.1751.1752.1753.1754.1755.1756.1757.1758.1759.1760.1761.1762.1763.1764.1765.1766.1767.1768.1769.1770.1771.1772.1773.1774.1775.1776.1777.1778.1779.1780.1781.1782.1783.1784.1785.1786.1787.1788.1789.1790.1791.1792.1793.1794.1795.1796.1797.1798.1799.1800.1801.1802.1803.1804.1805.1806.1807.1808.1809.1810.1811.1812.1813.1814.1815.1816.1817.1818.1819.1820.1821.1822.1823.1824.1825.1826.1827.1828.1829.1830.1831.1832.1833.1834.1835.1836.1837.1838.1839.1840.1841.1842.1843.1844.1845.1846.1847.1848.1849.1850.1851.1852.1853.1854.1855.1856.1857.1858.1859.1860.1861.1862.1863.1864.1865.1866.1867.1868.1869.1870.1871.1872.1873.1874.1875.1876.1877.1878.1879.1880.1881.1882.1883.1884.1885.1886.1887.1888.1889.1890.1891.1892.1893.1894.1895.1896.1897.1898.1899.1900.1901.1902.1903.1904.1905.1906.1907.1908.1909.1910.1911.1912.1913.1914.1915.1916.1917.1918.1919.1920.1921.1922.1923.1924.1925.1926.1927.1928.1929.1930.1931.1932.1933.1934.1935.1936.1937.1938.1939.1940.1941.1942.1943.1944.1945.1946.1947.1948.1949.1950.1951.1952.1953.1954.1955.1956.1957.1958.1959.1960.1961.1962.1963.1964.1965.1966.1967.1968.1969.1970.1971.1972.1973.1974.1975.1976.1977.1978.1979.1980.1981.1982.1983.1984.1985.1986.1987.1988.1989.1990.1991.1992.1993.1994.1995.1996.1997.1998.1999.2000.2001.2002.2003.2004.2005.2006.2007.2008.2009.2010.2011.2012.2013.2014.2015.2016.2017.2018.2019.2020.2021.2022.2023.2024.2025.2026.2027.2028.2029.2030.2031.2032.2033.2034.2035.2036.2037.2038.2039.2040.2041.2042.2043.2044.2045.2046.2047.2048.2049.2050.2051.2052.2053.2054.2055.2056.2057.2058.2059.2060.2061.2062.2063.2064.2065.2066.2067.2068.2069.2070.2071.2072.2073.2074.2075.2076.2077.2078.2079.2080.2081.2082.2083.2084.2085.2086.2087.2088.2089.2090.2091.2092.2093.2094.2095.2096.2097.2098.2099.2100.2101.2102.2103.2104.2105.2106.2107.2108.2109.2110.2111.2112.2113.2114.2115.2116.2117.2118.2119.2120.2121.2122.2123.2124.2125.2126.2127.2128.2129.2130.2131.2132.2133.2134.2135.2136.2137.2138.2139.2140.2141.2142.2143.2144.2145.2146.2147.2148.2149.2150.2151.2152.2153.2154.2155.2156.2157.2158.2159.2160.2161.2162.2163.2164.2165.2166.2167.2168.2169.2170.2171.2172.2173.2174.2175.2176.2177.2178.2179.2180.2181.2182.2183.2184.2185.2186.2187.2188.2189.2190.2191.2192.2193.2194.2195.2196.2197.2198.2199.2200.2201.2202.2203.2204.2205.2206.2207.2208.2209.2210.2211.2212.2213.2214.2215.2216.2217.2218.2219.2220.2221.2222.2223.2224.2225.2226.2227.2228.2229.2230.2231.2232.2233.2234.2235.2236.2237.2238.2239.2240.2241.2242.2243.2244.2245.2246.2247.2248.2249.2250.2251.2252.2253.2254.2255.2256.2257.2258.2259.2260.2261.2262.2263.2264.2265.2266.2267.2268.2269.2270.2271.2272.2273.2274.2275.2276.2277.2278.2279.2280.2281.2282.2283.2284.2285.2286.2287.2288.2289.2290.2291.2292.2293.2294.2295.2296.2297.2298.2299.2300.2301.2302.2303.2304.2305.2306.2307.2308.2309.2310.2311.2312.2313.2314.2315.2316.2317.2318.2319.2320.2321.2322.2323.2324.2325.2326.2327.2328.2329.2330.2331.2332.2333.2334.2335.2336.2337.2338.2339.2340.2341.2342.2343.2344.2345.2346.2347.2348.2349.2350.2351.2352.2353.2354.2355.2356.2357.2358.2359.2360.2361.2362.2363.2364.2365.2366.2367.2368.2369.2370.2371.2372.2373.2374.2375.2376.2377.2378.2379.2380.2381.2382.2383.2384.2385.2386.2387.2388.2389.2390.2391.2392.2393.2394.2395.2396.2397.2398.2399.2400.2401.2402.2403.2404.2405.2406.2407.2408.2409.2410.2411.2412.2413.2414.2415.2416.2417.2418.2419.2420.2421.2422.2423.2424.2425.2426.2427.2428.2429.2430.2431.2432.2433.2434.2435.2436.2437.2438.2439.2440.2441.2442.2443.2444.2445.2446.2447.2448.2449.2450.2451.2452.2453.2454.2455.2456.2457.2458.2459.2460.2461.2462.2463.2464.2465.2466.2467.2468.2469.2470.2471.2472.2473.2474.2475.2476.2477.2478.2479.2480.2481.2482.2483.2484.2485.2486.2487.2488.2489.2490.2491.2492.2493.2494.2495.2496.2497.2498.2499.2500.2501.2502.2503.2504.2505.2506.2507.2508.2509.2510.2511.2512.2513.2514.2515.2516.2517.2518.2519.2520.2521.2522.2523.2524.2525.2526.2527.2528.2529.2530.2531.2532.2533.2534.2535.2536.2537.2538.2539.2540.2541.2542.2543.2544.2545.2546.2547.2548.2549.2550.2551.2552.2553.2554.2555.2556.2557.2558.2559.2560.2561.2562.2563.2564.2565.2566.2567.2568.2569.2570.2571.2572.2573.2574.2575.2576.2577.2578.2579.2580.2581.2582.2583.2584.2585.2586.2587.2588.2589.2590.2591.2592.2593.2594.2595.2596.2597.2598.2599.2600.2601.2602.2603.2604.2605.2606.2607.2608.2609.2610.2611.2612.2613.2614.2615.2616.2617.2618.2619.2620.2621.2622.2623.262

1/20 今朝のう ぷいん だー！ 今日バイトで足がいた。い  
たい。のてあーる。本日は都度があると思って  
むたひ。

BOXにきた。ほんまにあのかい？ まだだれもきてないんだなあ  
これが。オレのカンチがい？ まあ、あってもおかしくないモンネ。  
で、中野宅は、都度のもようかんをしたので、ちよびと  
広くわいてるようになつたんだ。これがまたさぶらう。だからあ  
みんまで あそびにきてもらってもあ、バイトで おうへのだてあ、  
これがちよん。



1月3日 ねてすこす

1月4日 ねてすこす

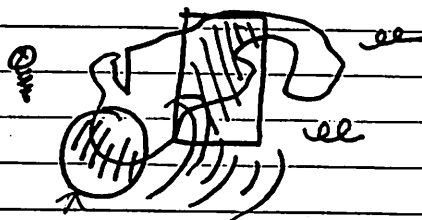
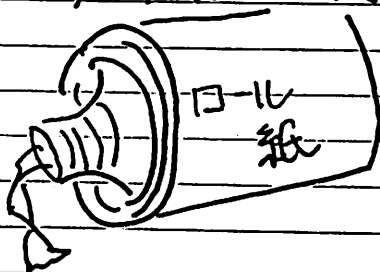
1月5日 友達とあう。浪人生はヒマ人や！

1月6日 新年会及びOB会 久しぶりにうま酒  
そあし オールナイトドライブ。初めうで！！

1月7日 AM 6:00に帰宅したから ねてすこす。

1月8~10日 そら中、さしほ。1日平均 15km。

このBOXは いけても 11月が 五月巴。



中野義治、今年1年は、とてななく(空)な1年になれそう。

人生80年、明日死ぬかも知れぬのに、今日も捨てなくてそれか  
人生80年、明日9時のために、今日も過さぬ。今日のために明日も生きよう。

むたひ。今日もいひをききよう。



2月17日

## NFICCの動き.

バレンタインデーも過ぎ、みんなチョコレートいくつももらった?  
とききたいが誰もいす。ちなみに私は、病院のバイトがあるので  
さいわいさいわい。そのなじみのメンバーには義理チョコももらっちゃって  
ホッとした14日ですが、この病院以外からは誰もくねませんでした  
山岳部の糸ヶ点 (IZUMI, FUJIMOTO, MIYAMOTO) からも、今だに  
なく。まあみんなもんかといいたが、14日の日は7★アットチューズデー  
になりました。

さてサークルもまだ、木上陣営が指揮もとり来週は大沢陣営に  
変わります。総括も、なんとか進みはじめ、おくらしましたか。

来週に集中部会に突入いたします。

しかし安堵が、……

まあ、帰るときから ああせえこーせえって 言わんことかな。

あたたく見守もってアドバイス。3年生のみなさんよろしい?

不安はあるだろうけど。

でも4年生になったら顔だけ見せて キーキー いわない。

さらおれと。

責任は彼らにうつすわけだからムカハは びきんやう。彼らも。

死ぬつもりで ぼくらは 目をつぶって 彼らにまかす。

そーしなきゅ いまどした、とも立って、山岳部になリません。

20年間つづいたサークルですから、いろんなことがあったんで、

部員が1人だった時もあったとうです。そして ぼくら現3年が入る

まじは、このサークルも 今のように (質はちがうが) 停滞していました。

これからづーと先へ、このサークル3年後 5年後は あらいいは30周年  
記念としてNFICCのレセプションが 市民会館で行われるようになる  
かも知れません。みなさんがんばりましょう

4. 20 (木) 父々のBoxです。しかし、まだ、1か月ぐらしかた、2年11の2。感懐の情は、とんと、わきません。公開サークルの最終日は、いかに、お世にさとし、遊びにきました。まだ、仕事はじめて、1か月弱で、本当に新米の私。妙に、やまが失せてます。

新入部員、今年は、どうか「あ」。一緒に山にいくといい。春合宿、がんばって下さい。気を付けてね。カラス隊長にふくと「あ」なが大変そうだな。と、ふと言いたいにしてしる私は、やっぱりもう。O.B.ですか。

今日は、すくなく一杯やりたい気分なんだから、明日、朝早いし、一番で帰っても、まにあわないから、どうしようもないしなあ。みんな、名古屋にあそびにきて下さい。のみにいきなすう。いきたいといふほいあるし。

なんか、みんな、つかれたし。私もつかれたし。どうも。新学期  
というこけやかな空気か。つかれた。こけや。どうしてかしら...

老人木 - 乙にハ、おとし、あゝ、うん、はあ、うん、あゝ、うん。

時代劇みるときに、部屋は「はい、え、え」に「話しかけて」と「うそこい」と自分の足たいてあこみ、なんかたのむと「あうじえこいたなと」といふ。

かんしゃくもろの 17 あらん 17. ヨヲヨク歩きのせに、重いバケツノ ほかへ  
先たくに 精をたし、話しかけと、びくくりして、せうかくんと 水を  
いじめることにはじめてしまい、1にのみして、びくくりするが、とと、いじめる。

目がらふと雲... 5481 表返し。一生けん命。えいせいけつ。

[illegible]

と、かの組長は、たらし、じいちゃんに。いふ。テレビでボートみで。無表情で。こも時々。笑いかけて。ふんさそうに笑います。

いづれ二人、人生の交差点に 新井と。知らずの場所です。7月か8月、2  
月か3月。 二人は、新しい情報に、あ、た、た、た、と下へ下へ。  
金庫の、あ、た、た、と下へ下へ。

1988年

10/4.(木) 久々のBox. しかし. 汚くない... 皆さん. お元気ですか.  
来る度に. 汚くないこのBoxに私はだんたん愛着を抱きつたりする。  
ごちゃごちゃの机の上に 徒然帳をひいて スペースをみたり. 腰をおろし  
ペンでアイスクリームを飲む. 「ふしか好きだなあ. こんな時.  
突然. お世が. 登場すると最高なのだよ. ね. ふしか. 私も  
突然. 登場してあげたい.

私は. ぶ厚い. 徒然帳が好きです. 今度. 新しくする時は.  
ぶ厚いのにして下さい.

皆さん. 山行. ですか. いろいろ. 企画はありますか...  
10月30日 のオ-ブ-ハイ7じのあたりに 清掃山行. もしお邪魔でいいと  
ひまそうになったら. 参加させて下さい.

ところで. 私は 10/8の夜. 名古屋まで 9~10とハゲ岳に  
行きます. フキと一緒に. 美濃戸口~赤岳鉱泉~赤岳~阿弥池  
~美濃戸のコースをとるつもりです. で. 今日. Boxをおとすための. 予定.  
テントをお借りしたい. と思. ています. 家を出る時. 村上タロ-氏に.  
Telしたら四者や. いると聞いたので. 誰かに会えかなと期待したけれど.  
一足遅かったようで. 今. 一人. Boxにいます. 早く誰かに「ふいか」.

95年度

日本福祉大学 II部山岳部

—— 方針 ——

# 日本福祉大学 II部山岳部方針 1995年度

一はじめに一

私たちは、山を愛し、一人ではできないことを多くの仲間の力でやっていこうとする集団である。その歩みは、24年を経て大学移転を数えて、13年を迎える。

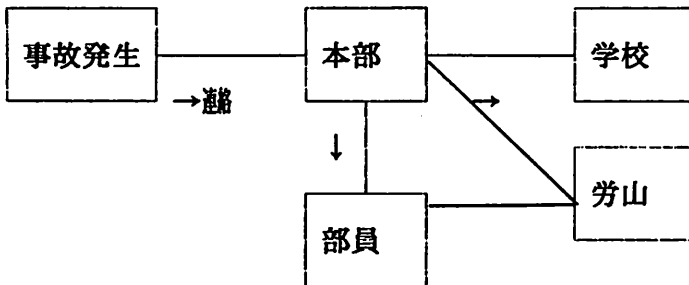
この24年間に蓄えられた山岳部本来の、常に山へ登り続ける姿勢を忘れてはならない。

## 《方針》

幅広く、創造性あふれる山行形態に対応出来るサークルを目指し、自然に対する謙虚さを忘れることなく、常に安全登山を行なう。

## 《年間計画の方向性》

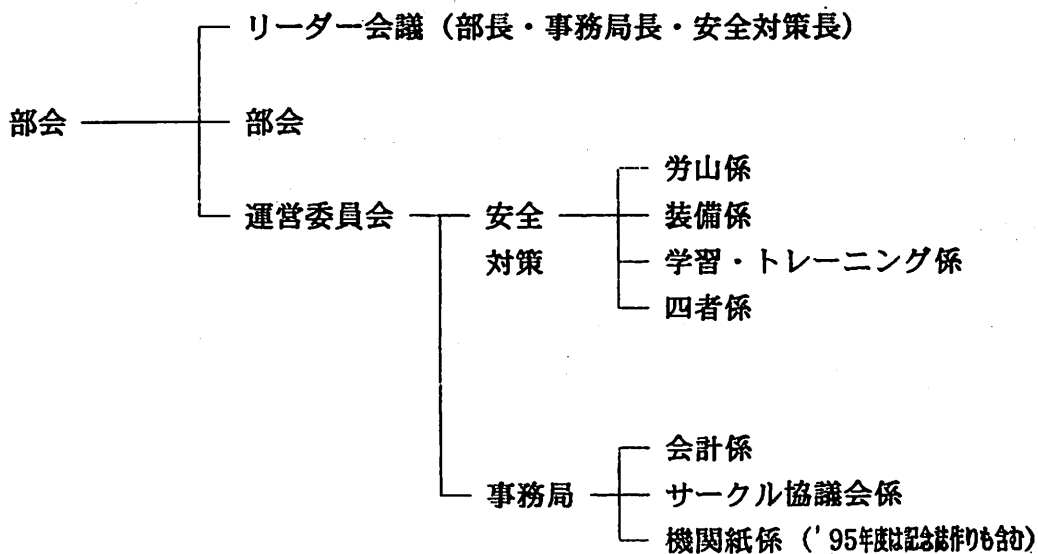
- ◇全体的な意志疎通の場である部会を最大限に活かしていく。
- ◇部の企画には部員一人ひとりが積極的に取り組み、全員参加を心がける。
- ◇遭難防止ののに努め、また、発生時対策を確かなものにする。



- ◇部員全員がサークルに根づけるような雰囲気づくりを心がける。
- ◇体力・技術の向上を目指す。

## 1.組織

本部には次の機関が、図のような位置づけでおかれている。



## 2.機関要旨

部会◆ 本部の山行面においての最終決議機関であり、本部の唯一の決議機関である。  
山行計画・報告、諸連絡、運営委員会、その他の話し合い、が主な内容である。  
原則として週一回・月曜日に開くものとする。その際には、できるだけレジュメ作りを行なう。

リーダー会議◆ 本部の二つの運営委員会（安全対策委員会・事務局）の長（安対長・事務局長）と、部長、二年生一人を中心にまとめていく。（希望者の参加は可）  
次部会の内容決定の場とする。

運営委員会等諸活動◆ 学習会を中心とする。その他部会で出来なかった事柄を行なう。  
原則として週一回・水曜日に開くものとする。

（安全対策委員会）

労山係◆ 労山の組織活動・連絡・交流に関わる仕事をする。

装備係◆本部の装備を管理する。

四者係◆四者委員会の組織活動・連絡・交流に関わる仕事をする。

### 3.合宿について

**部の意義◆** 部としての力量の確認の場（目標達成）、意気向上、活発化、部員の信頼感、協調性の向上、学習・トレーニング成果の確認。

**個人の意義◆** 部員としての自覚、技術・知識の向上と自己の到達点の確認。

**☆春合宿◆** 在部生間の意識向上の場とする。春休み中に始動。

**☆夏合宿◆** 幅広く創造性あふれる山行形態で、特に新人養成重点をおくものとする。年間で一大イベントとなる。

**☆冬合宿◆** 冬山での安全登山を目指し、雪上訓練で得た知識、技術を活かす場とする。また、一年間でつけた体力の確認。

#### 合宿の活動方針

- ◇原則的に全員参加。出来る限り合宿の日程を優先。
- ◇合宿の目標をもつ。
- ◇日程をはやめに決定し、合宿の準備はテンポを守り、2ヵ月前より行なう。
- ◇冊子完成は合宿の3週間前まで。
- ◇学習会・トレーニングの実施。
- ◇報告書完成は、合宿日程終了後2週間以内とする。
- ◇報告書完成までが合宿である。



#### 4部としての企画山行とその目的

オープン山行◆ 学内の人達と山に登ることにより、交流を深めるとともに、学内の人達にも山（春・秋） 登りの楽しさを知ってもらう。

新人歓迎山行◆新人部員歓迎、親睦を図る。

清掃山行◆山を美化するなかで自然保護をアピールする。労山との交流を図る。

準合宿◆新人に幕営生活を経験してもらう。

歩荷◆合宿を前に個々の体力・気力の確認と自信を養う。

雪上訓練◆積雪登山における雪上技術・知識を体得することで安全登山の確立を目指す。  
冬合宿前に必ず経験しておく。

（歩荷・雪上訓練については義務的なものとする。）

新人企画山行◆新人間の親睦を深め、力量確認の場とする。これを行なう事により新人の個人山行を認める。

四者山行◆三団体（ワングル部・アウトドアライフ研究会）との交流を深める。

5. 1995年度 活動予定表

95年度	山 行 計 画	行 事 予 定
4 月		サークルオリエンテーション 公開サークル
5 月	(春合宿) 新人歓迎山行 春のオープン山行	新入生歓迎コンパ
6 月	清掃山行～労山～ 歩荷	Ⅱ部山岳部OB会
7 月	準合宿 夏合宿	夏 休 み
8 月		
9 月	新人企画山行	
10 月	秋のオープン山行	
11 月	四者山行 雪上訓練 歩荷	大 学 祭 四者コンパ
12 月	冬合宿	
1 月 2 月 3 月	(春合宿)	集 中 部 会 (総括・方針) 追コン

記  
念  
誌  
作  
成  
期  
間

## 6. 活動方針

### 【 事 務 局 】

#### ◇会計係

##### 今年度の集金

部費：月々500円（月々10日までに納める）

労山費：月々250円

遭難基金（労山遭難対策基金）：5,000円

（新入部員は新規加入金500円プラス）

・遭難時の為の積み立て \* 4年生は集めない。

安全対策費：月々100円（年間1200円最初に1年分集めます。）

四者基金：年間500円（四者での積み立て）

◆労山の集会に出席する為の交通費は支給します。

◆サークル援助金の請求

◆会計報告

◆部費、領収書の管理、雑誌・備品の購入

#### ◇サー協係

◆部員にサー協とサークルの位置づけを認識させる。

◆自分達のサークルをアピールする機会を持ち、学生にⅡ部山岳部の存在を知ってもらう。

◆リソグラフの管理

#### ◇機関紙係

◆無名峰を新歓号と追コン号の2回発行する。

◆山声人話を春夏秋冬に発行。他、活発に発行する。

◆25周年記念誌の責任をもつ。

#### ～雑務～

◆レジュメ等のプリントの印刷・コンパの企画。

卒	氏 名	〒	住 所	☎
78 87	懸 武子 赤井 英明 荒木 加代子 秋積 孝二	456 529-03	名古屋市熱田区1-3-2-30市営一番荘3-401 滋賀県東浅井郡湖北町小倉742	052-671-5275
81 76 79	秋山 ゆう子 阿比留貴久雄 美知江	535 189 "	大阪市旭区太子橋1-27-11ハイマエ202 東京都東村山市青葉町2-38-8ファミネクス米川304 " (旧姓 吉田)	06-953-6079
82	飯島 茂樹 家近 ルツ子 和泉 晃 一戸 慎吾	862	熊本市京塚本町48-15	096-385-6835
81 80	伊藤 忠芳 井上 寛 猪又 康行 今泉 邦夫 岩波 徳子	946 487 239 487	新潟県北魚沼郡小出町青島7331県住21 愛知県春日井市岩成台6-2-1 36棟105 神奈川県横須賀市舟倉61-5 愛知県春日井市中央台7-8-3	02579-2-6558 0568-92-6291 0468-42-5467 0568-91-3650
76	上田 美智子	198	(旧姓 柘植) 名古屋市北区苗田町3番地 (旧姓 加藤)	052-901-0716
82 93 94 88	上野 利美 上野 琴代 江角 太 江口 正美 押忍見 哲也	899-27 289-25 699-04 632	東京都青梅市根ヶ布2-1370-182 (旧姓 当真) 鹿児島県日置郡松元町上谷口1676-1 千葉県旭市イの1326第7清和寮 島根県八東郡穴道町1256 奈良県天理市杣之内町1050	0428-23-5049 0996-57-0756
93 88 87 88	岡本 哲也 岡田 忠 由岐子 小野 浩二 大崎 武文	153 611 " 793 215	東京都目黒区上目黒1-25-7日本赤十字社友愛寮401 京都府宇治市槇島町南落合47-72 " (旧姓 有馬) 愛媛県西条市喜多川368-5	0774-22-0087 "
77 88	大島 しげ子 大塚 直美 大西 充芳 大淵 克巳 大矢 英信 小川 あき子 小川 一八	454 278 254 478 140	神奈川県川崎市麻生区高石4-16-36 310 名古屋市中区富田町千音寺497-41 (旧姓 渡辺) 千葉県野田市宮崎82-5-1-201 神奈川県平塚市袖ヶ浜20-39 227 愛知県知多市八幡笠廻間12-339 東京都品川区大井3-15-2ハイカット206	052-431-7971 0463-22-9426

卒	氏 名	〒	住 所	☎
76	笠原 富美雄	465	名古屋市名東区一社3丁目60-2	
81	風間 淑子	354	埼玉県富士見市渡戸3-16-14 (旧姓 三橋)	0492-51-5261
77	柏原 一彦	465	名古屋市千種区香流橋1-5-28	052-776-5689
77	加藤 康則	483	愛知県江南市松竹町向島108	0587-54-2681
	門脇 真粧美	380	長野県稲葉2086-4 (旧姓 市川)	0262-21-8947
94	亀井 孝子	330	埼玉県大宮市天沼町2-1037ときわ荘202	048-649-5246
77	片岸 昌晃	358	埼玉県入間市扇町屋1-10-10霞台団地1-302	03-3789-8590
77	片桐 治	399-45	長野県伊那市西箕輪5201-10	
77	川相 豊子	299-02	千葉県袖ヶ浦市下新田1680 (旧姓 賀川)	0438-63-5221
84	川田 良彦	509-41	岐阜県吉城郡国府町三川1325-2	0577-72-2485
84	信美	"	" (旧姓 二口)	"
	河本 房子			
	河合 潤			
	河合 康夫			
	北村 武	590	大阪府堺市今池町5-3-8	
	鬼頭 初恵			
	木田 治郎	489	愛知県瀬戸市すみれ台3-19	0561-48-4041
76	木村 久世	470-22	愛知県知多郡阿久比町草木末広31 (旧姓 河田)	0569-48-7304
76	桐原 正明	635	奈良県大和郡高田市築山546-1 (旧姓 越智)	
	桐山 茂			
	楠 秀嗣			
77	窪田 陽子	399-93	長野県北安曇郡白馬村北城1281-4 (旧姓 石坂)	0261-72-4553
	瀬瀬 博子	466	名古屋市昭和区長戸町1-34 (旧姓 坂本)	052-853-7779
	小浜 直弘	779-31	徳島市国府中町268-2	0886-42-1522
	笹川 ルリ子			
	佐藤 敏逸			
	佐藤 ひとみ	470-01	愛知県愛知郡東郷町御岳1-7-4	05613-8-4817
	佐藤 みどり			
	佐藤 義信	874	大分県別府市南立石本町5	0977-21-6312
	清水 宏泰			
	下薮 喜久代			
85	正崎 勝紀	465	名古屋市名東区若葉台901サハイツ名信307	052-777-5294
	白井 光枝			
95	新藤 禎之	467	名古屋市瑞穂区土市町1-39-2 師長荘1号	052-841-8219
	柴田 勲			
80	柴宮 一男	367	埼玉県本庄市北堀450-197	0495-24-8873

卒	氏 名	〒	住 所	☎
	杉山 みどり			
95	鈴木 恵	330	大宮市南中丸1156-24青葉荘201	048-684-3311
85	鈴木 宏	473	愛知県豊田市駒新町坂上113-5	0565-57-1576
86	康子	"	" (旧姓 新宅)	"
77	枋原 和生	671-12	姫路市網干区高田99	0792-74-2768
95	谷 征広	071-13	札幌市豊平区月寒東一条13八紘寮内	
87	谷口 富士臣	444-21	愛知県岡崎市井ノ口新町3-15イトワルのりみつ2-3	0564-24-5051
	武田 和子			
	滝口 豊之	053	北海道苫小牧市大成町1-56-17マンションA16	
87	滝本 祐二	787-07	高知県宿毛市山奈町山田3381	08806-6-0616
82	竹腰 裕泰	501-42	岐阜県郡上郡八幡町五町396	05756-5-5326
83	順子	"	" (旧姓 桑原)	
83	田部 秋浩	882-11	宮崎県西臼杵郡高千穂町三田井1918-2	0982-72-5953
	田村 行永	370-11	群馬県佐波郡玉村町下新田1150-5	
87	田中 まり子	562	大阪市箕面市桜井1-26-24	0727-23-6833
77	田中 裕子	047-01	北海道小樽市新光1-24 221 (旧姓 田巻)	
	高野 勤			
	高橋 智子		(旧姓 山本)	
81	高橋 憲常	464	名古屋市千種区千代が丘1番千代が丘団地107-808	052-771-5245
95	高橋 理佳	676	兵庫県高砂市伊保2-4-30	0794-47-3545
	柘 雅代	454	名古屋市千川区中須町206 (旧姓 天野)	052-351-1962
83	坪山 芳樹	616	京都市右京区梅津中村町12-19	
86	久美子	"	(旧姓 義平)	
90	照屋 秀文	904	沖縄県室川12-27-24	
87	富永 進	523	滋賀県近江八幡市土田町1038	0748-33-2187
	鳥居 昭夫			
82	長尾 美智子		(旧姓 小松)	
	長尾 裕子			
	中島 百代			
	中野 義治			
84	中村 桂子		(旧姓 神谷)	
94	中村 大	349-01	埼玉県蓮田市馬込1777-2	
84	西 直隆	470-21	愛知県知多郡東浦町緒川丸池台26-11	0562-84-3024
83	西 永	485	愛知県小牧市城山5-115城山住宅1-505	0568-79-0106
	西川 弥生			

卒	氏 名	〒	住 所	☎
85	福島 新治			
82	藤沢 忍	177	東京都練馬区石神井台2-5-25あたご荘F-2	03-5372-1159
	藤田 直利	436	静岡市掛川市和田1-8-2市営住宅201	0537-22-3940
	藤本 かすみ	440	豊橋市山田3番地70-2	
	藤原 葉子	508	中津川市中津川1010-201 1棟405 (旧姓 野村)	
81	星川 静穂	458	名古屋市長区鳴海町大将ヶ根13-562 カミグラントハウスB棟507 (旧姓 天野)	052-623-5489
	細川 啓			
	堀川 敏彦			
	本田 昌司			
	本間 恵理子			
	松本 晴美			
95	水上 和江	474	愛知県大府市共和町1-11-16カロード共和402	0562-48-8849
	水谷 誠治			
	三宅 治朗			
	宮本 映子			
95	武藤 伸子	457	名古屋市南区内田橋2-25-27 フォーブル内田橋205	052-692-5997
90	村上 英俊	514-01	三重県津市栗真町屋町1688	
84	森 千恵子	451	名古屋市西区名駅2-20-4 (旧姓 門脇)	052-581-0350
84	森下 敏嗣			
79	森本 真砂子	942	新潟県上越市五智3-05-14 (旧姓 野村)	
80	柳 政勝			
	柳原 哲夫			
77	矢吹 弘	173	東京都板橋区大谷口上町77-2	
88	安井 絹代	630	奈良市六条1-22-4-1 (旧姓 上松瀬)	0742-45-8102
77	安田 洋子	343	埼玉県越谷市神明町2-94-8 (旧姓 馬場)	0489-65-2305
93	安野 めぐみ	465	名古屋市名東区つつじ丘301 5-410	052-775-3931
81	山崎 保	525	滋賀県守山市横江町222-7守山教職員住宅E-1	0775-83-5966
77	山本 志津夫	516-21	三重県度会郡度会町棚橋695-2 (旧姓 落合)	05966-2-0767
92	山本 孝博	742-11	山口県熊毛郡平生町佐賀2694	0820-58-1622
	山本 美智枝	567	大阪府茨木市上穂積3-3-28 (旧姓 田辺)	0726-24-0162
87	結城 雅子	810	福岡市中央区福浜2丁目2-D-404	092-732-5570
	横井 ゆう子			
85	吉岡 久夫	465	名古屋市名東区高社2-229-2高社M311	052-776-5284
84	吉弘 雅人	593	大阪府堺市鳳北町8-454-2	0722-61-8599
	渡辺 裕久			

## 日本福祉大学Ⅱ部山岳部現役名簿

1995年現在

学年	氏 名	〒	現 住 所	☎
4	大西 君枝	475	半田市花園町1-10-1清風苑10号室	0569-23-4024 (呼)
4	児玉 多真美	470-33	南知多町内海中前田148コボ久エ門105	0569-62-2597
4	田那辺 由希	470-32	美浜町奥田北大西14ハイツユタカ203	0569-87-3027(203)
4	西崎 史人	470-32	美浜町奥田石畑260-2すみれ寮2号	0569-88-5281(104)
4	深津 孝宏	470-32	美浜町奥田三ヶ市31コーポ丸西2号-1	0569-87-3920
4	松本 充生	470-23	武豊町道崎6-2浜川荘2号室	0569-72-1306
3	黒田 山彦	470-32	美浜町野間若松66コボ やぶや15号	0569-87-5204
3	砂原 奈美子	475	半田市星崎町2-207-2スターヒルズマルカ310号	0569-26-5039
3	堀川 尚美	470-32	美浜町奥田森越13コボ 市村208	0569-87-1876
3	山本 武弘	470-32	美浜町奥田外面98-1第2丸谷荘107	0569-87-3619
2	田口 剛	470-32	美浜町奥田西卯起58-3石川マンション203-1	0569-87-5324
1	小澤 由紀	470-32	美浜町奥田藤路321-2コボカト106	0569-87-3854
1	片桐 幸代	470-32	美浜町三ヶ市82-2渡辺アパート106	0569-87-3660(106)
1	渋谷 香	475	半田市青山町4-4-1リファイン青山3E	0569-26-0441
1	長井 ゆき	470-32	美浜町奥田石亀93清和寮南313号	0569-87-2485 (呼)
1	長嶋 初重	475	半田市天神町54キャッスルハウス田園101	0569-22-6587

## 95年度卒業生の卒業後の連絡先

	氏 名	〒	住 所	☎
	大西 君枝	440	豊橋市西岩田3丁目14-1	053-63-3489
	児玉 多真美	949-71	新潟県南魚沼郡六日町五日町2198-1	0257-76-3666
	田那辺 由希	114	東京都北区豊島3-28-8	03-3912-5962
	西崎 史人	703	岡山県岡山市四御神414-5	0862-79-3528
	深津 孝宏	370	群馬県高崎市八幡町917-2	0273-43-6124
	松本 充生	223	神奈川県横浜市港北区下田町2-15-8	045-561-7985



## 編集後記

四半世紀おめでとう！

「25周年」というより「30周年」とした方が早いような気がしたが、「25周年」にこだわるところが、このⅡ部山岳部らしいとすごく思う。

そんなこの部に入ったばかりの頃、よくイライラしたものだ(今でもかなりもどかしいが)。なにはともあれ私も一部員です。このⅡ部山岳部を愛し、愛されるよう育てていきたいと思っています。

最後になりましたが、突然の電話での原稿の催促をいたしましたことをお詫び申し上げます。また、原稿をお寄せ下さった方などご協力ありがとうございました。

(一年小澤)

昨年度は山岳部の創部25周年にあたり、先輩OBの方からのご要望も受け、昨年度の後記に在部生でも話し合い、今年度の年間計画として記念誌作成を組み入れてきました。編集委員が代表で関わってきましたが、在部生にも協力してもらい、原稿依頼やお寄せいただいた原稿のワープロ化等を手伝ってもらいました。

記念誌の内容については、とても不十分なもので、先輩OB・OGの方々には、資金面で多額の援助を受けているにも関わらず、期待に応えられる内容ではないと申し訳なく思います。しかし、未熟ながら私たちがこの作成の機会を得られ、今こうして完成しようとしている段階にたどりつけた事大変うれしく思います。

この記念誌が皆様に一読していただき、いろんな事を感じていただけたらと願っています。

(3年堀川)

(編集委員)

OB代表者：吉岡久夫

部員：松本充生 田口剛 山本武弘

小澤由紀 堀川尚美

「無名峰」創部25周年記念誌

印刷日 1995年12月

発行日 1996年 1月

発行 日本福祉大学Ⅱ部山岳部

〒470-32

愛知県知多郡美浜町奥田

学生会館 サ-クル3

☎0569-87-2482

創部25周年を祝う会寄付（1995年3/1～12/15現在）として次の  
方々に、この記念誌発刊にむけての御援助を頂きました。

（敬称略・順不同）

藤田直利、星川静穂、木村久世、岡田忠・由岐子、猪又康行、加藤康則

滝口豊之、森千恵子、佐藤ひとみ、川田良彦・信美、竹腰順子

窪田陽子、矢吹弘、秋山ゆう子、鈴木宏・康子、藤沢忍

風間淑子、竹腰裕泰、片桐治、柏原一彦、西直隆、吉弘雅人

吉岡久夫、亀井孝子、懸武子 坪山久美子

以上の皆様、ご協力誠にありがとうございました。